

平成13年度 鹿児島大学概要

Outline of KAGOSHIMA UNIVERSITY 2001

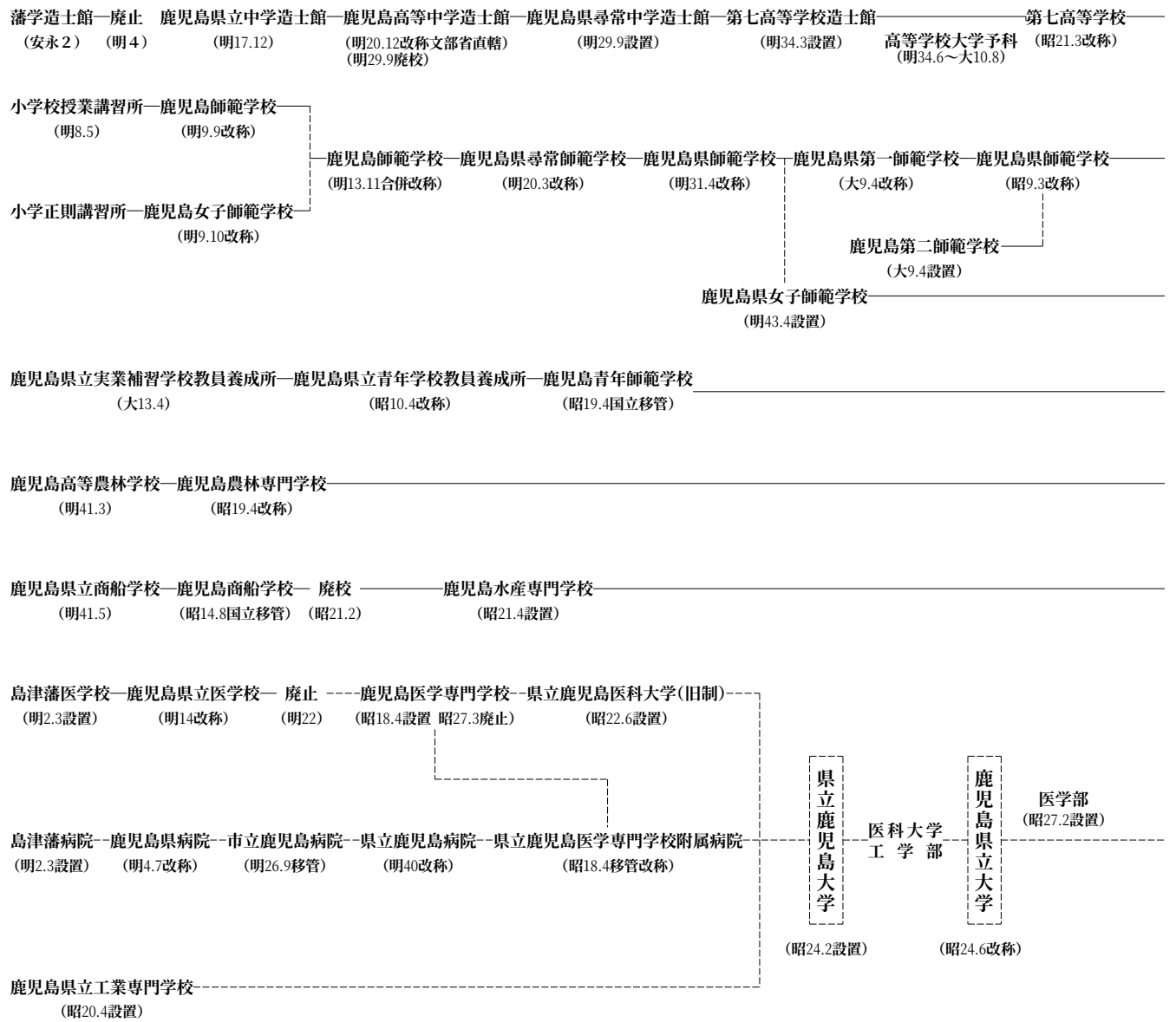
学 年 暦

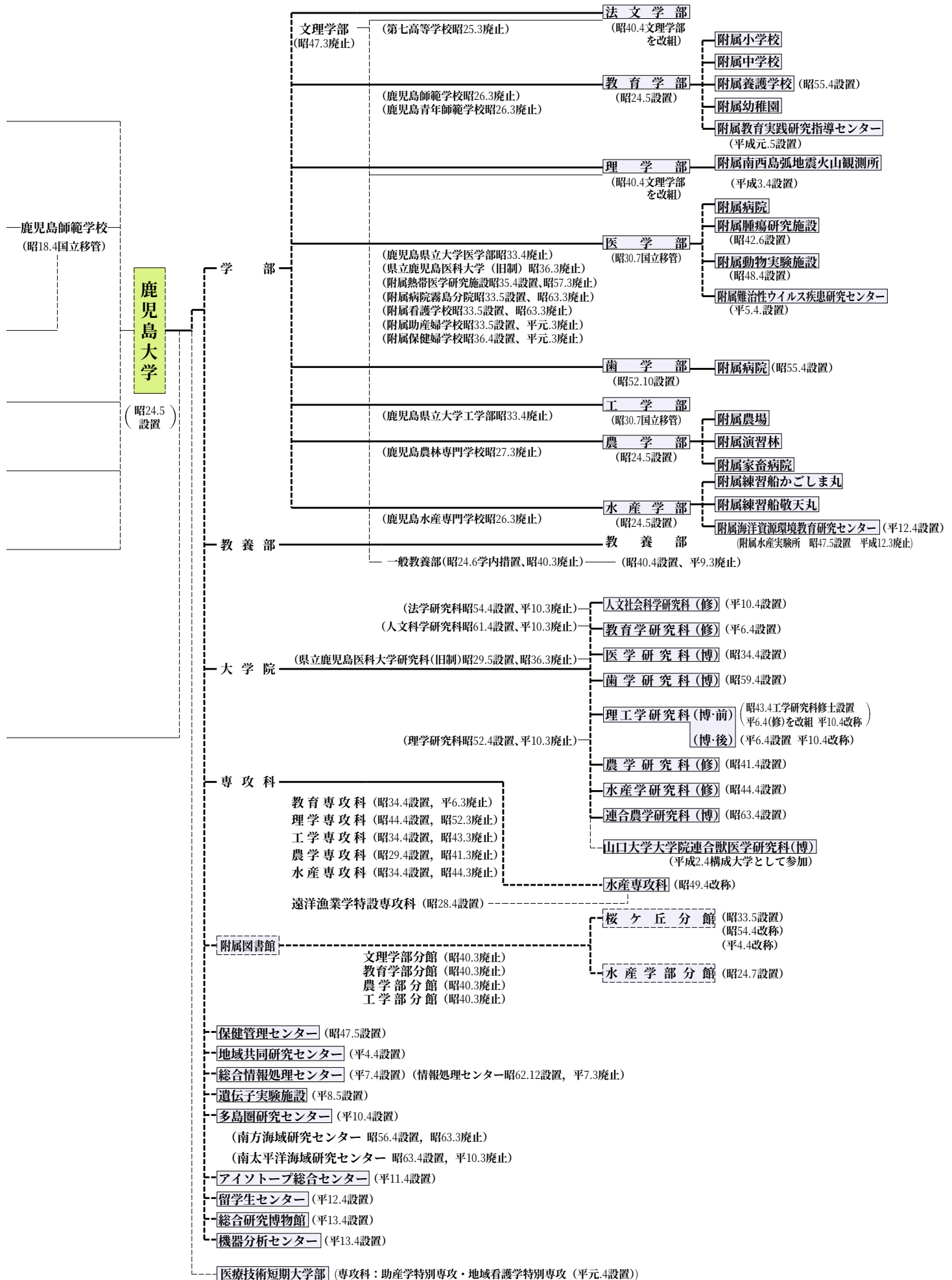
学 年	前 期	4月1日～9月30日
	後 期	10月1日～3月31日
入 学 式		4月4日
休 業	春 季 休 業	4月1日～4月10日
	夏 季 休 業	7月11日～9月10日
	冬 季 休 業	12月25日～1月8日
	鹿児島大学記念日	11月15日
卒 業 式		3月25日

Contents

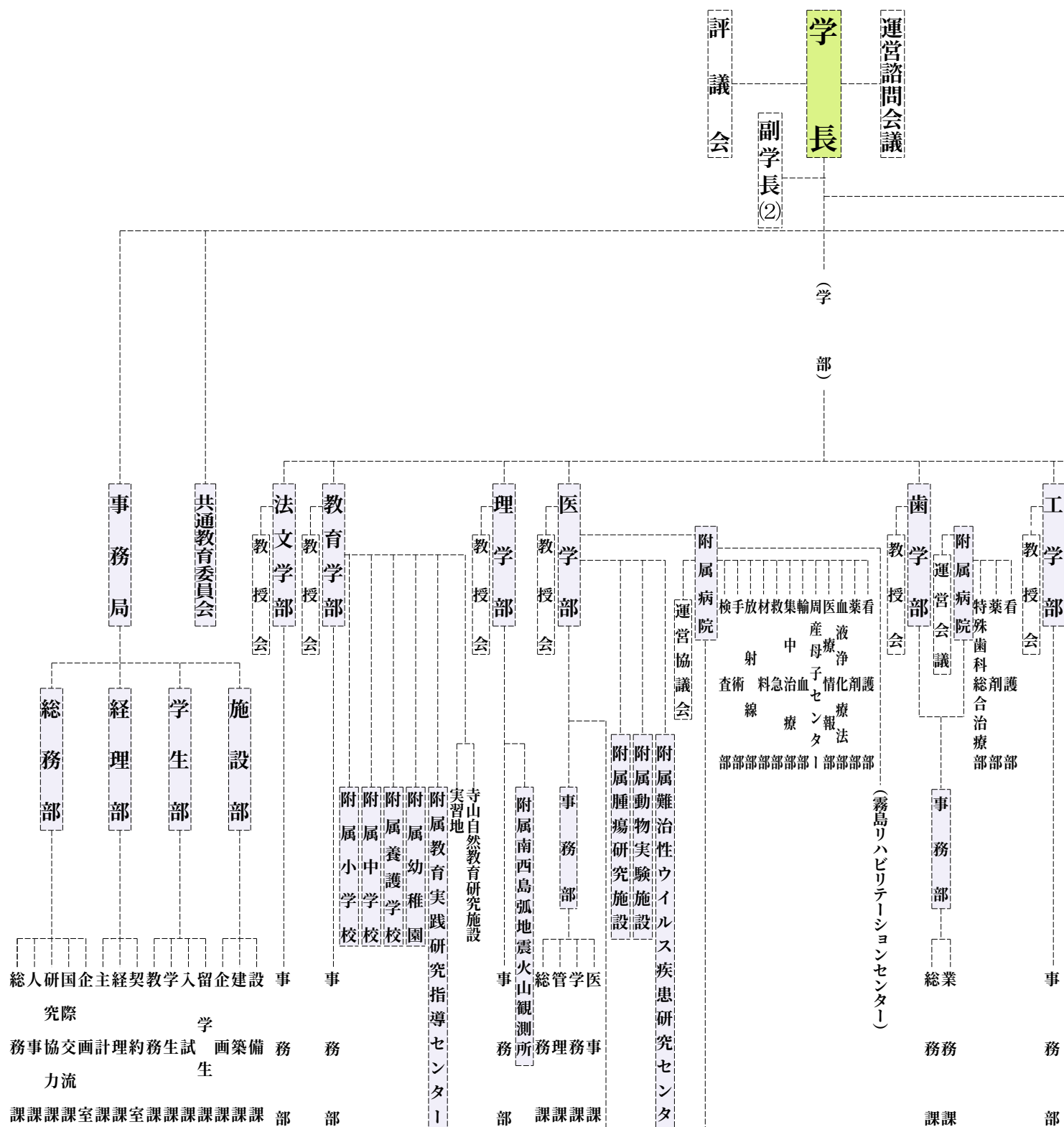
● 沿革概要図	2	● 卒業（修了）生数及び就職状況	36
● 運営機構図	4	● 学位授与状況	37
● 共通教育等	6	● 奨学生	37
● 学部・大学院等	7	● 国際学術交流協定大学	38
● 医療技術短期大学部	18	● 外国人研究者の受入状況	39
● 山口大学大学院連合獣医学研究科	18	● 学術刊行物	39
● 附属図書館	19	● 研究員等の受入状況	40
● 学内共同教育研究施設	21	● 歳入歳出決算	40
● 全学共同利用施設	22	● 各種学術研究費	40
● 厚生施設等	23	● 公開講座	42
● 全学合同研究プロジェクト	25	● 土地・建物・船舶	43
● 歴代学長	27	● 地区別建物等配置図	44
● 役職員	27	● 交通機関利用略図	46
● 職員の現員	29	● 所在地一覧	47
● 学生の定員・現員	30	● キャンパスの全景	48
● 外国人留学生	33	● 鹿児島大学位置図	49
● 入学状況	34		

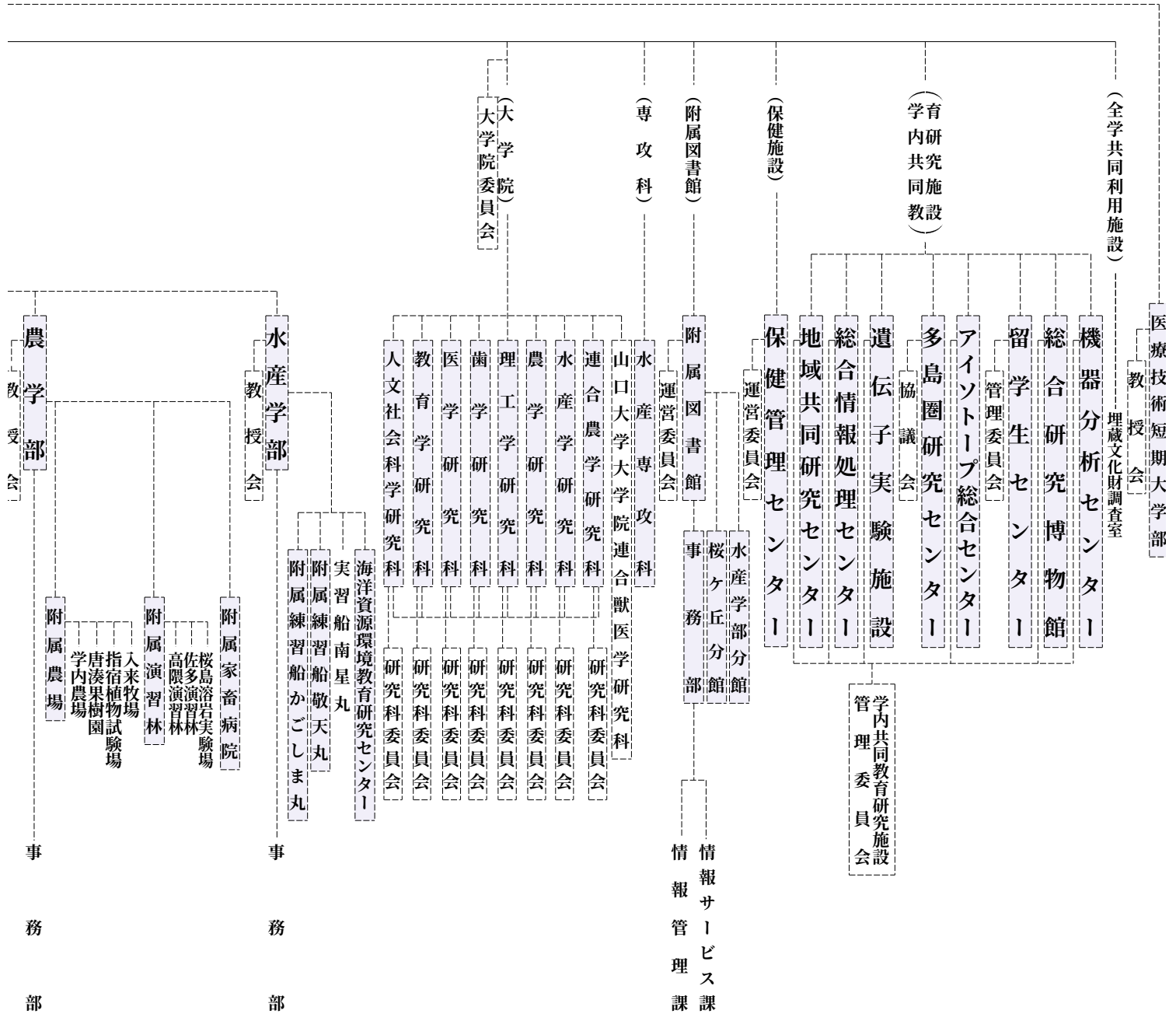
沿革概要図





運営機構図





共通教育等



鹿児島大学では、平成3年の大学設置基準の大綱化にともない、組織改革と教育改革を実施した。「鹿児島大学の新しい教育」においては、これまでの一般教育科目等にかわって共通教育科目等を導入することとした。

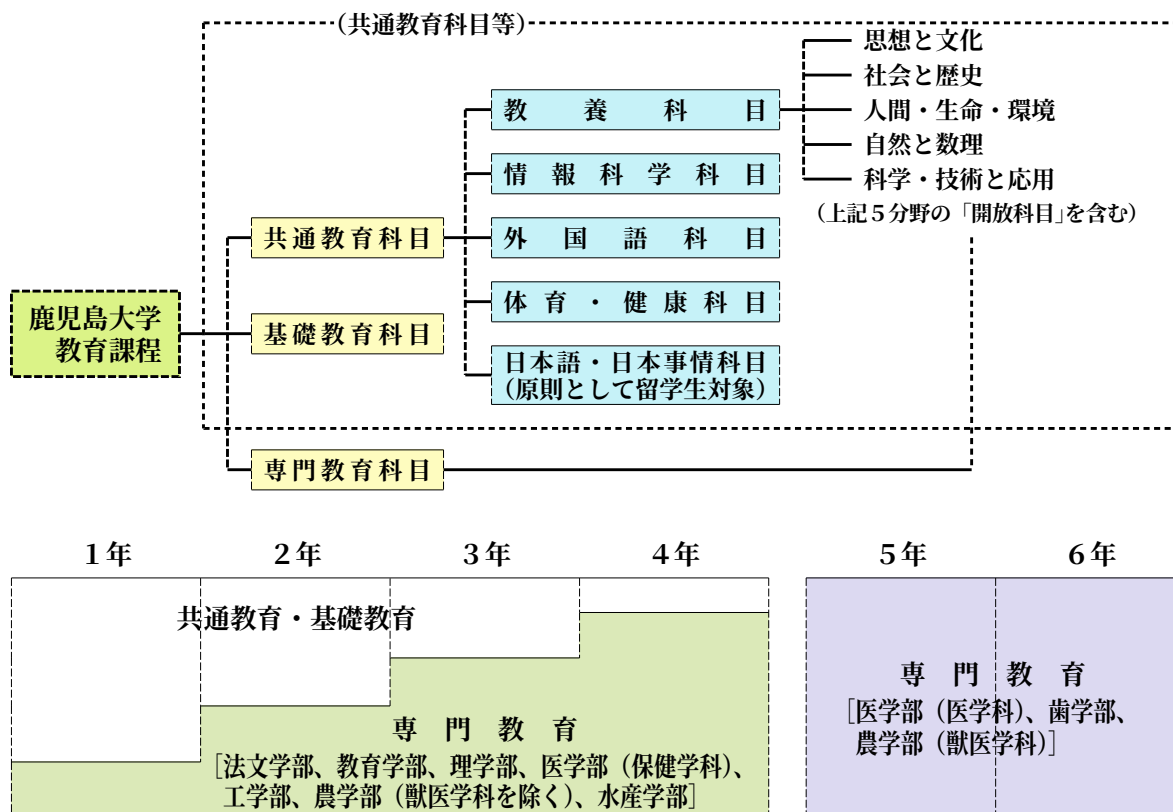
このため、平成9年3月に教養部を廃止し、それに代わる共通教育の企画・運営の責任組織として、鹿児島大学共通教育委員会を設置して、4（6）年一貫教育を全学教官の協力体制で実施している。

本学の教育は、共通教育科目、基礎教育科目、専門教育科目の三本柱に区分され、そのうち、共通教育科目は、教養科目、情報科学科目、外国語科目、体育・健康科目および外国人留学生等のための日本語・日本事情科目から構成されている。教養科目には、専門教育科目の一部を他学部の学生が受講できるように開設している各学部の「開放科目」も含まれる。

共通教育では、①広い視野から諸科学・学問と人間性の係わりについての理解を深める、②人類と日本社会が直面している基本的問題のありかと、それに係わる知見の現状を明らかにし、学ぶことの今日的意味を自覚する、③諸科学・学問体系における自己の専門の位置を理解する、④諸科学・学問の方法を理解し、普遍的な学研態度を養う、⑤専門教育との有機的な結びつきの下に、分析力や思考力を高め、適正な批判力や判断力を養うことを目標としている。

そのため、とくに教養科目では、授業科目を5分野に分けて、すべての学生が自己の専門領域や狭い関心に固執しないで、現代の諸科学を広く学ぶことができるように指導している。

(教育課程の構成)



学部・大学院等

法 文 学 部 人文社会科学研究科



法文学部は、昭和24年鹿児島大学の発足に伴い、第七高等学校を母体として設置された「文理学部」を改組し、昭和40年4月から法学科、経済学科及び文学科の3学科をもって発足した。昭和54年4月の改組により文学科は人文学科に、平成9年4月の改組により、法学科は法政策学科に、経済学科は経済情報学科になった。また、昭和54年4月、法学研究科（修士課程）法学専攻が設置され、昭和61年4月には人文科学研究科（修士課程）文化基礎論専攻、地域文化論専攻が設置された。なお、平成10年4月には、法学研究科と人文科学研究科を発展的に解消し、人文社会科学研究科（修士課程）を設置し、法学、経済社会システム、人間環境文化論、国際総合文化論の4専攻を設けた。法学専攻と経済社会システム専攻では社会人学生を受け入れている。

創設以来本学部は、南九州における人文・社会科学に関する教育研究の中心として官界、産業界及び教育界に数多くの人材を送り出してきた。3学科に共通して言えることは、それぞれの専門的知識の修得に基づいた人間形成を目標としたカリキュラムの編成が行われていることである。ことに、平成9年4月の改組により、3学科ともに授業内容を充実し、新しい学問・研究・教育体系による情報化、国際化などの地域社会の変化に対応できる人材育成を目標としている。



●演習風景

学 科	講 座
法 政 策 学 科	政策科学、市民法、法交渉
経 済 情 報 学 科	経済システム、経営情報、地域計画、国際協力
人 文 学 科	人間科学、地域環境、日本・アジア総合文化、ヨーロッパ・アメリカ総合文化

研 究 科	課 程	専 攻
人文社会科学研究科	修 士	法学専攻、経済社会システム専攻、人間環境文化論専攻、国際総合文化論専攻

教育学部

教育学研究科



教育学部は、小学校授業講習所・師範学校から引き続き、国民の知的水準の向上と文化の発展に責任感と使命感を持ち積極的に寄与できる教員の養成を目指し、長年にわたって多くの有為な人材を世に送り、鹿児島県教育界はもとより広く各界に貢献してきた。

平成6年4月から大学院教育学研究科（修士課程）が開設され、教育研究や教員養成の機能をさらに高めるとともに、現職教員の受け入れにより現場教員の資質の向上にも尽力している。

わが国社会の急激な変化や児童生徒の問題行動の多発等により、新しい時代の指導者の養成と学校における諸問題を的確に解決できる資質を備えた教員の養成が強く求められており、教育学部は、これらの社会的要請に応じて、平成9年4月から教員養成に関わる課程を「学校教育教員養成課程」、「養護学校教員養成課程」の二課程に再編、整備するとともに、カリキュラム及び履修方法の全般的な改革を行った。同時に生涯教育が重視されるようになった新しい時代に対応するために、教育学部の特徴を生かしながら国・地方公共団体の職員を始め、広く社会教育の分野などで活躍できる指導者の養成を目指し「生涯教育総合課程」を開設した。

教育学部には、附属的教育実践研究指導センター・4附属学校園（小学校・中学校・養護学校・幼稚園）及び、寺山自然教育研究施設があり、実践的研究を深めるとともに学生の実習の指導に当たっている。



●デザインの授業風景

課 程 等	講 座 等
学 校 教 育 教 員 養 成 課 程	国語教育、社会科教育、数学教育、理科教育、音楽教育、美術教育、保健体育、技術教育、家政教育、英語教育、教育学、心理学
養 護 学 校 教 員 養 成 課 程	障害児教育
生涯教育総合課程	地域社会教育、国際理解教育、健康教育
附属教育研究施設	小学校、中学校、養護学校、幼稚園、教育実践研究指導センター

研 究 科	課 程	専 攻
教 育 学 研 究 科	修 士	学校教育専攻、教科教育専攻

理 学 部

理工学研究科



理学部は昭和40年に第七高等学校を前身とする文理学部の改組拡充により発足し、昭和52年には大学院理工学研究科が、さらに平成3年には附属南西島弧地震火山観測所が設置された。そして平成9年4月に、それまでの5学科（数学、物理、化学、地学、生物）が改組され、数理情報科学、物理科学、生命化学、地球環境科学の4学科に統合再編成され数理・情報・物理・宇宙・化学・生命・地球・環境の8教育コースを設けた。

さらに、平成10年4月には、大学院理工学研究科を工学研究科と統合し、理工学研究科が設立され、理系の博士前期専攻は数理情報科学、物理科学、生命化学、地球環境科学の4専攻に改組され、博士後期課程としては生命物質システム専攻が新設された。平成13年4月に国立天文台、宇宙開発事業団との連携により「連携大学院」が設置された。

本学部は、南九州地区における唯一の基礎自然科学系学部として、教育研究を進めるとともに、南九州の多様な自然環境に関連した研究を通じて、地域社会とも密接な関係を持ち、その発展に貢献している。本学部における教育は、個々の専門分野での深い知識を与えることだけでなく、広く科学的な考えを身につけ、高度化した現代社会の多様な要求に柔軟に応えることのできる人材を育成することを目標にし、21世紀に向けての新たな展開を目指している。



●実習風景

学 科 等	講 座 等
数理情報科学科	数理構造、現象数理、情報数理
物理科学科	物性理論、固体物理、宇宙情報
生命化学科	分子機能化学、有機生化学、生命機能
地球環境科学科	地質科学、島弧火山、環境解析、多様性生物学
附属教育研究施設	南西島弧地震火山観測所

研 究 科	課 程	専 攻
理工学研究科	博士前期	工学系
		機械工学専攻、電気電子工学専攻、建築学専攻、応用化学工学専攻、海洋土木工学専攻、情報工学専攻、生体工学専攻
		理学系
		数理情報科学専攻、物理科学専攻、生命化学専攻、地球環境科学専攻
	博士後期	工学系
		物質生産工学専攻、システム情報工学専攻
		理学系
		生命物質システム専攻

医 学 部

医学研究科



●病理学実習

医学部の前身は、明治2年に設立された英国式の医学校の島津藩医学校である。初代の校長であったウィリアム・ウイリス博士は、鹿児島に西洋医学を紹介し、この学校で多くの日本人生徒の教育に努めた。

母体となる県立鹿児島医学専門学校は、昭和18年に開校し、その後、昭和22年に県立鹿児島医科大学、昭和27年に鹿児島県立大学医学部、昭和30年に国立移管され鹿児島大学医学部と変遷をたどった。

また、昭和49年に鹿児島市山下町の旧七高跡地から桜島を臨む高台の桜ヶ丘に移転し、現在に至っている。

本学部は、医学科の基礎系16、臨床系21の37講座、保健学科の3専攻（8講座）、4附属施設及び事務部で構成されている。中でも平成5年に設置された難治性ウイルス疾患研究センターは、南九州に多い難治性疾患についてヒトレトロウイルス研究分野、臓器癌ウイルス研究分野、分子病理・遺伝子疫学研究分野の三分野における基礎・臨床両面での研究を積極的に進めている。

平成12年10月からは、大学卒業者を第2年次後期に編入学させる学士編入学制度がスタートした。

平成12年度からは、自ら問題を発見し、その解決方法を見いだすための一つの授業方法として、「チュートリアル教育」を3、4年生を対象に24の授業科目で、15室を使用して実施している。

平成13年4月には、日本でもまた、世界でも例を見ない、離島の社会、文化、歴史の特性を踏まえたプライマリーケア（救急医療を含む）、高齢者医療、風土病への医療等を有機的に関連させる包括医療を実践的に教育・研究する「離島医療学講座」を設置した。

なお、保健学科は、優れた医療技術者の育成を目指して、平成10年10月に設置され、平成11年4月から学生の受入れを開始した。

また、大学院医学研究科は、昭和34年に設置され、生理系・病理系・社会医学系・内科系・外科系の5専攻が置かれている。さらに、平成11年度から秋季（10月）入学制度及び昼夜開講の社会人入学制度を導入し、地域医療や医学関連分野で活躍している社会人に門戸を広げた。

学 科 等		講 座 等
医 学 科		解剖学第一、解剖学第二、生理学第一、生理学第二、生化学第一、生化学第二、薬理学、病理学第一、病理学第二、細菌学、ウイルス学、衛生学、公衆衛生学、離島医療学、医動物学、法医学、内科学第一、内科学第二、内科学第三、リハビリテーション医学、神経精神医学、小児科学、外科学第一、外科学第二、脳神経外科学、整形外科学、皮膚科学、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、放射線医学、産科学婦人科学、麻酔・蘇生学、臨床検査医学、小児外科学、医療情報管理学、医療総合科学
保健学科	看護学専攻	総合基礎看護学、臨床看護学、母性・小児看護学、地域看護・看護情報学
	理学療法学専攻	基礎理学療法学、臨床理学療法学
	作業療法学専攻	基礎作業療法学、臨床作業療法学
附 属 教 育 研 究 施 設		附属病院：19診療科710床（リハビリテーション科（霧島リハビリテーションセンター）50床含む）
		腫瘍研究施設
		動物実験施設
		難治性ウイルス疾患研究センター

研 究 科	課 程	専 攻
医 学 研 究 科	博 士	生理系専攻、病理系専攻、社会医学系専攻、内科系専攻、外科系専攻

医学部附属病院



医学部附属病院の前身である島津藩病院は、明治2年に設立された。その後、県立鹿児島医学専門学校附属病院、県立鹿児島大学医学部附属病院を経て、昭和33年に国立移管され、鹿児島大学医学部附属病院と改称した。また、昭和63年4月に霧島分院を廃止して、当地の豊富な温泉を利用した脳卒中片マヒや高次脳機能障害リハビリテーション、骨関節疾患の運動療法及び物理療法を主として行う霧島リハビリテーションセンターを設置した。

本院は、医学教育・研究実践の場であると同時に、地域における中枢的医療機関としての使命を持っている。

現在、19の診療科、15の中央診療施設等、治験管理センター、薬剤部、看護部及び事務部で構成されており、特定機能病院として、重症・難病患者の診療、高度先進医療、末期医療への取り組み及び高齢化社会に対応した医療体制の確立に向けて、積極的に取り組んでいる。特に、全診療科出動方式による救急医療においては、確実に成果をあげている。



●手術風景

(平成12年度)

診療科名	患者数		病床数	診療科名	患者数		病床数
	入院	外来			入院	外来	
第一内科	18,479	19,971	50	泌尿器科	9,518	9,283	29
第二内科	19,725	18,439	55	眼科	9,060	20,582	29
第三内科	15,654	15,033	42	耳鼻咽喉科	10,776	13,351	34
リハビリテーション科	17,015	10,457	50	放射線科	8,899	5,486	23
神経科精神科	13,811	13,656	45	産科婦人科	16,130	15,806	48
小児科	14,503	14,407	40	麻酔科蘇生科	862	3,202	3
第一外科	18,204	8,521	51	小児外科	4,308	3,799	9
第二外科	17,900	8,291	52	心身医療科	2,121	9,903	5
脳神経外科	8,536	6,562	20	共用	(9,294)	0	43
整形外科	17,601	14,198	50	放射線治療病室	(89)	0	3
皮膚科	10,167	15,115	29	計	233,269	226,062	710

(注) () は再掲

歯 学 部

歯学研究科



歯学部は、沖縄を含む南九州全域における歯科医学の教育、研究の中核的役割を果たすべく、昭和52年10月に設置された。

歯科医学は口腔諸器官の構造と機能を正常に維持することによって、人間の健康を守る学問であり、本学部では、う蝕、歯周疾患、咬合異常、腫瘍、外傷、形成不全など正常な口腔機能とそれを損なう原因と予防法を総合的に追求し、その対策を研究するとともに、歯科医学を通じて社会の発展に十分に貢献しうる人材を育成することを目標にしている。

教育においては、人間形成に資するための共通教育科目を学習させることにも力を入れるとともに、歯学概論や社会歯科学をはじめ内科学、外科学など医学全般についても重視することとし、医学的学問を基礎とした歯科医学教育を目指している。また、独特な教育制度として、学生が講座の実験などに参加する選択科目制度を設け、学生が独自の個性と創造力を伸ばすことができるよう配慮している。

大学院歯学研究科（博士課程）においては、自立して研究活動を行うに必要な能力と学識を修得させ、歯科医学の研究、教育の指導的人材を育成することを目標としている。また、平成11年度より昼夜開講制度を取り入れるとともに、博士（歯学）に加えて、博士（学術）の学位の授与も行えるようになった。



●授業風景

学 科 等	講 座 等
歯 学 科	口腔解剖学（１）、口腔解剖学（２）、口腔生理学、口腔生化学、口腔病理学、口腔細菌学、歯科薬理学、歯科理工学、歯科基礎科学、予防歯科学、歯科保存学（１）、歯科保存学（２）、歯科補綴学（１）、歯科補綴学（２）、口腔外科学（１）、口腔外科学（２）、歯科矯正学、小児歯科学、歯科放射線学
附属教育研究施設	附属病院（11診療科（歯科麻酔科を含む）、40床）

（注）１．講座数

大講座制をとり、19講座相当（基礎 9講座相当、臨床 10講座相当）

２．大講座については、講座相当として（１）、（２）で記入した。

研 究 科	課 程	専 攻
歯 学 研 究 科	博 士	歯学専攻

歯学部附属病院



歯学部附属病院は、南九州における唯一の歯科の教育研究病院として昭和55年に開院し、歯科医療の発展と地域住民の口腔保健の向上に貢献してきた。現在、11診療科と一般歯科総合診療部、特殊歯科総合診療部、手術室、病室（40床）、リハビリテーション室などの中央診療施設を備え、一般的な歯科診療から高度先進医療までの幅広い医療を提供して地域の中核病院としての役割を果たしている。そして病院の全機能を通じて歯学部学生の臨床教育や歯科医師の卒後研修を行うのみならず、県下の歯科衛生士学校生や看護学校生の受託実習、研修登録医の生涯研修等も引き受けて、時代と地域の要請に応えている。



●診療風景

（平成12年度）

診療科名	患者数		病床数	診療科名	患者数		病床数
	入院	外来			入院	外来	
予防歯科	0	5,930	共通	第二口腔外科	6,154	9,119	共通
保存科	0	12,626		矯正科	0	7,634	
歯周病治療科	0	16,016		小児歯科	65	8,670	
第一補綴科	0	10,607		歯科放射線科	0	426	
第二補綴科	0	11,887		歯科麻酔科	35	1,435	
第一口腔外科	5,061	7,985		特殊歯科総合診療部	0	758	
計					11,315	93,093	

工 学 部

理工学研究科



●情報ネットワークの基礎実験

昭和24年4月鹿児島県立大学の発足に伴い、鹿児島県立工業専門学校を母体として工学部が設置され、同30年県立から国立移管され鹿児島大学工学部となった。創立時は4学科であったが、設置・改組を経て7学科となった。また、昭和43年4月には大学院工学研究科（修士課程）が設置されたが、平成6年4月博士前期課程（6専攻）として改組し、博士後期課程として物質生産工学専攻、システム情報工学専攻が設置された。さらに、平成10年4月には、大学院工学研究科と理学研究科とを統合し、理工学研究科が設置され、工学系の博士前期課程に6専攻、博士後期課程に2専攻が置かれ、平成13年4月には博士前期課程に生体工学専攻が新設された。

工学部は工学を支える基礎研究の中核として、また、国際的視野を持った技術者の養成機関として果たすべき役割は極めて大きく、現代社会の多様化した要請に応じるには、新しい分野の開拓が必要である。

このような新しい分野を開拓すべく広い視野と問題発見及び解決能力のある柔軟な頭脳をもつ研究者・技術者の養成を目指している。

また、これまで以上に国際的に通用する技術者の育成を目指して、教育課程の見直し等を行い、J A B E E（日本技術者教育認定機構）への認定に向けての取り組みも行われている。

大学院は新しい分野の開拓とそれを担う研究者・技術者の養成に適した横断的な学問分野で構成されている。また、特別選抜の制度を設け指導方法などを工夫することにより、社会人技術者を積極的に受け入れる体制を整えている。

学 科	講 座	
機 械 工 学 科	設計生産システム工学、エネルギーシステム工学	
電 気 電 子 工 学 科	電子物性デバイス工学、電気エネルギー工学、通信システム工学	
建 築 学 科	建築構造構成学、居住環境構成学	
応 用 化 学 工 学 科	分子工学、機能材料工学、化学システム工学	
海 洋 土 木 工 学 科	環境システム工学、建設システム工学	
情 報 工 学 科	知能情報工学、情報システム工学	
生 体 工 学 科	生体機能材料、生体電子工学	
	京セラ経営学（寄附講座）	

研 究 科	課 程	専 攻	
理工学研究科	博士前期	工学系	機械工学専攻、電気電子工学専攻、建築学専攻、応用化学工学専攻、海洋土木工学専攻、情報工学専攻、生体工学専攻
		理学系	数理情報科学専攻、物理科学専攻、生命化学専攻、地球環境科学専攻
	博士後期	工学系	物質生産工学専攻、システム情報工学専攻
		理学系	生命物質システム専攻

農 学 部

農学研究科



農学部は明治41年開設の国立鹿児島高等農林学校に始まり、昭和19年4月鹿児島農林専門学校と改称、昭和24年鹿児島大学農学部となった。当初の学部組織は農学科、林学科、蚕糸学科、農芸化学科、獣医学科、総合農学科の6学科であったが、その後数回の改組が行われ、現在は生物生産学科、生物資源化学科、生物環境学科、獣医学科の4学科構成となっている。

本学部は桜島を望む恵まれた自然環境のもとで、衣食住の生活物資の持続的生産管理、生物の持つ生命機能を活かした人の健康の増進、人と自然との調和をはかり豊かな緑と潤いのある生活環境づくり、並びに高度の技術を活かした動物の疾病の予防と治療など、地域との連携をはかりながら、それぞれの分野で幅広い教育と研究を行っている。さらに学部の上には、修士課程（農学研究科）及び博士課程（連合農学研究科、連合獣医学研究科）が整備され、教育と研究の充実を図っている。

また学部や大学院では、多様化する社会のニーズや国際化時代に対応できる広い視野と、より高度な専門的知識と創造力を身につけた人材の養成を目指している。



●ウマの関節鏡下での橈骨遠位端骨片摘出術の風景

学 科 等	講 座 等
生 物 生 産 学 科	作物生産学、園芸生産学、病虫害制御学、家畜生産学、農業経営経済学
生物資源化学科	生命機能化学、食品機能化学、食糧生産化学
生 物 環 境 学 科	森林管理学、地域資源環境学、農林工学、生産環境工学
獣 医 学 科	家畜解剖学、家畜生理学、家畜薬理学、家畜病理学、家畜微生物学、獣医公衆衛生学、家畜内科学、家畜外科学、家畜臨床繁殖学
附属教育研究施設	農場、演習林、家畜病院

（注）獣医学科は学科目で示す。

研 究 科	課 程	専 攻
農 学 研 究 科	修 士	生物生産学、生物資源化学、生物環境学

水産学部

水産学研究科 水産専攻科



●遠洋航海実習に出航するかごしま丸

水産学部は、本土最南端に位置する特徴を生かし、亜熱帯的特徴を持つ南西諸島を含む沿岸域を舞台とした地域社会との連携と東南アジア域を中心とした低緯度諸国の水産業を対象としたグローバルな課題を軸に、総合科学としての水産学教育・研究を推進している。

学部では、水産学の基礎的知識の修得に重点を置いた教育が行われており、水産学科（水産総合コース、水産環境コース、水産資源コース）と水産教員養成課程の1学科、1課程からなっている。水産学科においては、学生は教育コースにおいて専門分野を選択し、最終学年では下記の5大講座に所属し、卒業研究に従事し、学部教育の総仕上げを行うと同時に、より高度な教育を受けるための素地を養うことを目標としている。水産教員養成課程においては、水産学科のカリキュラムに加え、水産高校教員免許取得のためのカリキュラムが組み合わされ、教員としての学識と豊かな人間性をもった人材養成を目標としている。本学部の特徴として、附属教育研究施設を活用した乗船実習等といった実地で学理・技術を修得するカリキュラムも多く盛り込まれている。

大学院水産学研究科（修士課程）では、今後ますます高度化していく水産分野に従事する高度な専門知識を有した技術者を養成することを目的としている。また、将来研究者としてより高度な技術者を目指し、博士（水産学）の学位取得を望む者には、鹿児島大学大学院連合農学研究科がある。

水産専攻科（遠洋漁業専攻）は、学部での教育を基礎に海上での高度技術者を養成するための1年課程の教育組織であり、6ヶ月の乗船実習カリキュラムが組み入れられている。本課程を修了すると三級海技士（航海）の国家試験受験の際、学科試験が免除される特典がある。

また、近年の海洋環境（特に沿岸海域）の破壊によって資源環境が危機的状況になりつつある中で、食糧生産の確保及び地球環境の保全といった時代の要請に応えるために、平成12年度に附属海洋資源環境教育研究センター（「生物多様性」「環境保全」「開発管理」の3分野）が設置され、当該分野における人材育成、研究成果の地域社会への還元及び国際貢献を図ることとしている。

学 科 等	講 座 等
水 産 学 科	環境情報科学、漁業基礎工学、海洋社会科学、資源育成科学、資源利用科学
水産教員養成課程	
附属教育研究施設	附属練習船かごしま丸（1,297トン）
	附属練習船敬天丸（860トン）
	附属海洋資源環境教育研究センター
	実習船南星丸（83トン）、資源利用科学実習棟、回流水槽実験室、鴨池海洋生産実験室

研 究 科	課 程	専 攻
水 産 学 研 究 科	修 士	水産学専攻

専 攻 科	専 攻
水 産 専 攻 科	遠洋漁業専攻

大学院連合農学研究科



大学院連合農学研究科は、本学を設置大学とし、佐賀大学と宮崎大学を参加大学とする後期3年の独立研究科（博士課程）として昭和63年4月に設置された。平成4年4月には新たに琉球大学の参加が認められ、4大学5研究科の修士課程と附属施設を母体とする体制となった。本研究科は、4大学が連合して共通の博士課程の教育研究を行うという全く新しい制度として発足したものであるが、このことによって各構成大学の教官が密接に関連を持つようになり、大学の枠を越えた、かつ専門領域を越えた協力関係が可能になっている。また、本研究科は、九州・沖縄地区の食糧生産基地としての重要性に立脚し、その専攻に、他の地区の連合農学研究科にはない水産学系専攻を設けていることが大きな特色となっており、農学及び水産学に関する幅広い教育研究を行っている。学生の指導体制については、学生1人について、主指導教官1人と副指導教官2人が研究指導に当たるなど、極めて効率的なものとなっている。また、単位制の授業は行わないが、広く農学及び水産学に関する知識を修得させるとともに、自己の専門分野に深い関連のある分野の知識を修得させるために共通セミナー（一般及び特別）を開講し、その修得を学位申請の必須条件にしている。



●共通セミナー（一般）風景

課 程	専 攻	連 合 講 座
博 士	生 物 生 産 科 学	植物生産学、動物生産学、農林資源・経営学、熱帯資源生物学
	生物資源利用科学	応用生物化学、資源利用化学、生物機能開発学
	生物環境保全科学	生物環境保護学、生物生産工学
	水 産 資 源 科 学	海洋生産環境学、水産資源利用学

（注）連合農学研究科は4大学（佐賀、宮崎、鹿児島、琉球）で構成。

医療技術短期大学部



医療技術短期大学部は、鹿児島大学医学部附属看護学校を母体とし、昭和60年10月看護学科、理学療法学科及び作業療法学科の3学科で発足した。また、平成元年4月に鹿児島大学医学部附属助産婦学校及び保健婦学校を母体とし、専攻科助産学特別専攻及び地域看護学特別専攻が設置された。

本短期大学部は、看護、理学療法及び作業療法に関する高度の知識及び技術を教授研究し、豊かな教養と人格を備え、広く国民の保健医療の向上に寄与することのできる医療技術者を育成することを目的として開設され、3年（専攻科1年）修学し、国家試験合格後、それぞれ看護婦（士）、理学療法士、作業療法士、助産婦及び保健婦（士）の免許が与えられる。

本短期大学部は公開講座を年4回開催するなど、地域に密着した活動を行っており、また、学生のボランティア活動も盛んで、「乳児健康審査」等に毎年参加している。

なお、本短期大学部は平成11年4月に医学部保健学科に発展的に改組し、在学生が卒業するまで存続することになっている。



●看護学科実習風景

山口大学大学院連合獣医学研究科



連合獣医学研究科は、平成2年4月に鹿児島大学、鳥取大学、山口大学及び宮崎大学が連合して設置された修業年限4年の博士課程である。基幹校を山口大学に置き、四大学が連合して共同研究や学術研究などを通じて幅広い教育研究が行われている。

本研究科は、1専攻（獣医学専攻）で、3連合講座から成り、学生の入学定員は12名であるが、学術研究の高度化、国際化及び社会人の再教育などの社会的ニーズに対応するために、獣医学士のみならず、他の分野の卒業生、外国人及び社会人を積極的に受け入れ、創造性豊かな研究者や高度の専門的知識と能力を有する人材を養成している。学生1人につき、指導教官1人、副指導教官2人が指導に当たるが、他大学の教官並びに学生相互の討論を通して、自己を高めると同時に相互の親睦と連帯感の形成に役立っている。

課 程	専 攻	連 合 講 座
博 士	獣 医 学	基礎獣医学、病態・予防獣医学、臨床獣医学

（注）山口大学大学院連合獣医学研究科は4大学（鳥取、山口、宮崎、鹿児島）で構成。

附属図書館

URL <http://www.lib.kagoshima-u.ac.jp>

附属図書館は、中央図書館（郡元地区）、桜ヶ丘分館（桜ヶ丘地区）及び水産学部分館（下荒田地区）の3館で組織されており、本学の学生及び教職員の学習・研究のために必要な図書館資料を広い分野にわたり収集し利用に供している。また、キャンパスネットワークを介して多様な学術情報の提供も行っている。

中央図書館は、国立大学に9館設置してある外国雑誌センター館の一つとして農学系雑誌を多数収集し、学内及び全国共同利用サービスセンターとしての役割も果たしている。特殊文庫として島津久光及び島津玉里邸の旧蔵書である「玉里文庫」を所蔵している。

桜ヶ丘分館は、主として医学部・歯学部・医療技術短期大学部を、水産学部分館は、主として水産学部をサービス対象にしているが、利用者は、中央図書館及び二つの分館を共通に利用できる。

利用者へのサービスとして、閲覧・貸出をはじめ、所在調査・事項調査等のレファレンス・サービス、文献複写、情報検索、大学図書館間相互利用等を行っている。

また、一般市民の生涯学習を支援するために図書館を開放し、多くの市民に利用されている。中央図書館及び2分館ともに資料の閲覧、レファレンス・サービス、文献複写のサービスを行っているが、中央図書館では、平成11年4月より館内に配置している図書の貸出サービスも行っている。

●開館時間

区 分	授 業 期			休 業 期・3月		
	月～金	土	日	月～金	土	日
中央図書館	9:00 ～20:00		10:00 ～17:00	9:00 ～17:00 (*3月を除く)	閉 館 (*3月を除く)	閉 館 (*3月を除く)
桜ヶ丘分館	9:00 ～21:00	10:00 ～17:00		9:00 ～21:00	10:00 ～17:00	10:00 ～17:00
水産学部分館	9:00 ～20:00		閉 館	9:00 ～17:00	～17:00	閉 館

*中央図書館は3月の土・日については、10:00～17:00の開館



●中央図書館

●休館日

- ・「国民の祝日に関する法律」に規定する休日及び振替休日
- ・鹿児島大学記念日（11月15日）
- ・年末年始（12月27日～1月5日）
- ・その他、臨時に休館する場合があります。

●蔵書数

図書(冊)

(平成13年5月1日現在)

	区 分	総 記	哲 学	歴 史	社会科学	自然科学	技 術	産 業	芸 術	言 語	文 学	合 計
和 漢 書	中央図書館	66,503	44,132	75,443	202,801	114,147	71,064	56,141	29,773	27,075	72,345	759,424
	桜ヶ丘分館	1,100	1,717	734	5,671	91,329	1,173	336	664	1,959	1,460	106,143
	水産学部分館	2,290	556	1,944	13,471	14,761	9,365	15,755	1,082	1,360	772	61,356
	小 計	69,893	46,405	78,121	221,943	220,237	81,602	72,232	31,519	30,394	74,577	926,923
洋 書	中央図書館	16,550	19,392	16,914	53,310	83,512	19,973	20,558	4,438	13,402	33,704	281,753
	桜ヶ丘分館	943	319	107	617	78,784	101	77	85	460	466	81,959
	水産学部分館	772	135	323	1,062	5,999	2,853	4,568	302	360	87	16,461
	小 計	18,265	19,846	17,344	54,989	168,295	22,927	25,203	4,825	14,222	34,257	380,173
合 計		88,158	66,251	95,465	276,932	388,532	104,529	97,435	36,344	44,616	108,834	1,307,096

雑誌(種類数)

区 分	和 漢 書	洋 書	計
中央図書館	11,136	4,839	15,975
桜ヶ丘分館	1,743	1,755	3,498
水産学部分館	1,099	529	1,628
合 計	13,978	7,123	21,101

●中央図書館（地上5階地下2階建 延床面積 12,697㎡）

（平成13年5月1日現在）

区分	室名及びコーナー	内 容	区分	室名及びコーナー	内 容	
地下1階	開 架 書 庫	新聞、洋雑誌（1979年以前）、 和雑誌、政府刊行物等、コピー機（校費用）	3階	固 定 書 架 集 密 書 架 参 考 図 書 コーナー 放送大学教材コーナー 郷 土 資 料 コーナー P A C S コーナー 複 写 コーナー ラ ウ ン ジ 研 究 個 室 31 ～ 36 グ ル ー プ 学 習 室 31	一般図書（総記、哲学、歴史、社会科学） 国内大学の紀要 ハンドブック等 放送大学教材 鹿児島関係資料、玉里文庫複製本等 OPAC端末4台 プリペイドカード式コピー機1台 6室 ビデオプロジェクター、定員24名	
地下2階	開 架 書 庫	稀用図書		4階	固 定 書 架 集 密 書 架 参 考 図 書 コーナー P A C S コーナー 複 写 コーナー ラ ウ ン ジ 研 究 個 室 41 ～ 46 研 究 者 談 話 室	一般図書（自然科学、技術、産業、芸術、言語、文学） 稀用図書（洋書）、大型コレクション ハンドブック等 OPAC端末4台 プリペイドカード式コピー機1台 6室
1階	メインカウンター レファレンスカウンター P A C S コーナー 新聞閲覧コーナー 参考図書コーナー 国際交流コーナー 地 形 図 コーナー 本学関係者著作寄贈図書コーナー A V コーナー 展 示 コーナー 複 写 コーナー カード目録コーナー マルチメディア端末室 リーダープリンタ室 視聴覚・マイクロ資料室 情 報 検 索 室	貸出、返却、利用案内等 参考調査、相互貸借受付 OPAC用端末6台 地方紙を含む新聞 参考図書、二次資料、蔵書目録 留学生、国際理解のための図書資料 日本全国の5万分の1の地形図 本学関係者著作及び学内発行紀要等 放送大学、BBC、CNN、ビデオ資料、CD-ROMメディア情報検索 展示ケース2台 カラーコピー機1台（校費用）、プリペイドカード式コピー機1台 昭和40～63年度受入図書目録 教育研究用端末16台 リーダープリンタ2台、リーダー2台、CD-ROM検索 視聴覚・マイクロ資料、テレビデオ2台 オンライン情報検索			5階	A V ホール 貴重書庫 貴重図書閲覧室 特殊資料書庫
2階	固 定 書 架 集 密 書 架 ブラウジングコーナー 新着雑誌コーナー P A C S コーナー 複 写 コーナー 研 究 個 室 グループ学習室21～22	外国雑誌バックナンバー（1980年以降） 同上 一般雑誌、グラビア誌 国内及び外国新着雑誌 OPAC用端末2台 校費用及びプリペイドカード式コピー機各1台 6室 2室（各定員12名）				

●桜ヶ丘分館（地上3階建 延床面積 1,980㎡）

区分	室名及びコーナー	内 容
1階	カウンター PACSコーナー 目録コーナー 複写コーナー 新聞閲覧コーナー 新着雑誌展示室 書庫（集密書架）	OPAC用端末8台 カラーコピー機1台 新聞 新着雑誌 稀用資料
2階	PACSコーナー 複写コーナー DLSコーナー	教育研究用端末2台、OPAC用端末1台 校費用コピー機1台、プリペイドカード式コピー機1台 CD・DVD視聴装置 参考図書、二次資料 カレント雑誌 欧文雑誌バックナンバー
3階	PACSコーナー 複写コーナー ビデオコーナー	教育研究用端末2台、OPAC用端末1台 プリペイドカード式コピー機1台 図書（和書、洋書） 和文雑誌バックナンバー ビデオ資料2台



●レファレンスカウンター



●閲覧風景

●水産学部分館（地上2階建 延床面積 849㎡）

区分	室名及びコーナー	内 容
1階	カウンター PACSコーナー 新聞閲覧・新着雑誌コーナー 複写コーナー ロックス 書庫	OPAC用端末3台、CD・DVD視聴装置 新聞・新着雑誌 校費用カラーコピー機1台 稀用図書、雑誌
2階	閲覧室 PACSコーナー 視聴覚室 雑誌室 複写コーナー	参考図書、単行本、逐次刊行物、修士論文 教育研究用端末7台、OPAC用端末1台 ビデオ資料 国内大学紀要 プリペイドカード式コピー機1台

学内共同教育研究施設

地域共同研究センター

地域共同研究センターは、本学と地方公共団体や民間企業との相互協力による共同研究等を推進し、本学の教育研究の進展に資するとともに地域社会における技術開発及び技術教育等の振興に資することを目的として、平成4年4月に設置された。

センターでは、本学の研究シーズと企業の技術ニーズのマッチングを行うとともに、各種セミナーや技術研修等を行っており、産学官連携の窓口として、重要な役割を担っている。



総合情報処理センター

総合情報処理センターは、本学のコンピュータシステム及びキャンパス情報ネットワークを管理運用し、これらを教育研究等本学の情報処理のための利用に供することを目的として、平成7年4月に設置された。

センターは、学内の情報処理、及び情報伝達の中核的な組織として、教育研究を支援し、本学の情報化の推進に寄与している。



遺伝子実験施設

遺伝子実験施設は、組換えDNA実験その他の遺伝子実験に関する教育研究及び安全管理を行うことにより、本学における遺伝子研究の総合的推進を図ることを目的として、平成8年5月に設置された。

近年、分子生物学を基礎としたバイオテクノロジーは、各分野に導入され、特に、遺伝子組み換え技術は、21世紀にかけて実用レベルで大きな発展が予想され、本施設を利用した教育研究の成果が大いに期待される。



多島圏研究センター

多島圏研究センターは、アジア太平洋の多島域について、学際的な調査研究を実施して学術の国際交流を図り、これらの地域の福祉発展に寄与することを目的として、平成10年4月に設置された。

センターでは、①人と自然の相互作用、②地形・生物伝播等の自然地理、③社会・文化変容と自然環境、④社会医学的環境、⑤国際社会の島嶼国家の役割、の5つの課題を設定し、学内兼務教官や学外協力者と連携協力しながら、フィールドワークを重視した研究活動に取り組んでいる。



アイソトープ総合センター

アイソトープ総合センターは、本学の放射性同位元素（R I）を利用する教育研究に資するとともに、安全管理に関し中心的な役割を担うことを目的として、平成11年4月に設置された。

センターは、学内の各R I施設と連携して、①R Iの安全管理、②R I取扱者に対する教育訓練、③最新のR I実験方法等の情報収集・提供など、R Iの利用に関しての総合的な業務を行うこととしているが、センター施設が未整備なため早急な施設整備が望まれている。

留学生センター

留学生センターは、外国人留学生及び海外留学を希望する本学の学生に、必要な教育及び指導助言等を行うことにより、本学における国際交流の推進に寄与することを目的として、平成12年4月に設置された。

この目的のために、外国人留学生に対する、日本語予備教育、日本語及び日本事情に関する教育、修学上及び生活上の指導助言、さらに外国人留学生と地域社会との交流の推進や、海外留学を希望する学生への情報提供及び指導助言等の業務を行っている。

総合研究博物館

総合研究博物館は、学内の貴重な学術資料を一元的に整理・管理・展示公開して研究・教育に効果的に利用し、さらに広く一般社会へ学術標本に関する情報を発信する役割を担うことを目的として平成13年4月に設置された。

博物館では、

- 1) 学術資料を活用した教育環境の実現
 - 2) 学際的分野の要請に応える標本情報の提供
 - 3) 大学と地域との連携を強化する公開展示、公開講座、講演会の開催
 - 4) 国際的な学術標本の相互利用・交換の促進
- を実現するために学内外の協力者とともに取り組んでいる。



●鹿児島大学の標本の一例（理学部多様性生物学講座所蔵）

機器分析センター

機器分析センターは、各学部に分散して運用してきた共用性の高い大型機器を集約し、組織的・体系的に研究支援、保守管理を行うことを目的として、平成13年4月に設置された。

センターには、現在19の機器装置が登録されており、研究者が質の高い研究を行い、その成果を社会に還元していくことを支援し、本学の研究者だけでなく、地域に開かれたセンターとして学外の研究者との積極的な交流も図り、共同研究等の支援も行っていくこととしている。

全学共同利用施設

埋蔵文化財調査室

本学の郡元キャンパスと桜ヶ丘キャンパスは、旧石器時代から近代までの長期にわたる遺跡である。特に、郡元キャンパスは弥生時代の水田関係の遺構と古墳時代の大規模な集落跡、桜ヶ丘キャンパスは縄文時代早期の住居跡と弥生時代中期の集落跡が確認された遺跡として広く知られている。また、入来牧場や学生寮建設地でも縄文時代の遺跡が確認されている。

埋蔵文化財調査室では、このような構内や附属施設に存在する遺跡の発掘を中心とした調査を施設整備事業に即して行い、そこから得られた埋蔵文化財の整理・報告書の作成および研究を行っている。また、その成果は埋蔵文化財調査室年報として刊行している。



●床に炭と赤い顔料が散らばっている古墳時代の住居跡（総合研究棟建設地）

稲盛会館

会館は本学工学部出身の京セラ㈱名誉会長稲盛和夫氏から科学技術を中心とした知的交流を促進するための場として本学に寄贈されたもので、日本を代表する著名な建築家安藤忠雄氏の設計によるものである。

(1) 利用目的

教育及び学術の交流の場として本学の職員その他関係者の利用に供することにより、本学の教育研究の進展に資するとともに、学術及び文化の向上に寄与することを目的としている。

(2) 施設の概要

会館は①地下1階～地上3階建、②建面積810.40㎡、延面積1,628.85㎡、③ホール、ロビー、ホワイエ及び会議室からなる。

(3) 利用方法等

研究会、国際会議、講演会及び公開講座等に利用でき、利用希望者は事前に使用許可申請書を管理部門の工学部に提出し学長の許可を受ける。



厚生施設等

保健管理センター

保健管理センターは、昭和47年に設置された。その設置目的は学生の心身の健康の保持増進である。

センターはこの趣旨に沿い、現在、以下の業務を行っている。

- ①定期健康診断 ②特別健康診断並びに臨時健康診断 ③心理相談並びに学生相談 ④日常の一般診療 ⑤健康診断書発行 ⑥健康教育活動 ⑦その他



なお、これらの業務には、主として、センター専任の医師、看護婦、栄養士等が当たっているが、この他にも、医学部及び同附属病院から、内科、神経精神科、放射線科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科の先生方が学医として、また、法文学部、教育学部の心理学の先生方がカウンセラーとしてそれぞれ診療やカウンセリングにあたっている。

相談科名等	相談日	(時間)
内科	毎週月曜	(9時～11時)
	" 水曜	(14時～16時)
	" 木曜	(9時～11時)
	" 金曜	(14時～16時)
	" 土曜	(9時～11時)
	" 日曜	(14時～16時)
心理相談	毎週月曜	(9時～11時)
	" 水曜	(9時～11時)
	" 金曜	(9時～11時)
整形外科	毎月第1・3木曜	(14時～16時)
眼科	毎月第1・3水曜	(14時～16時)
耳鼻咽喉科	毎月第2・4木曜	(14時～16時)
学生相談	毎月第1・3木曜	(14時～16時)
	" 第2・4金曜	(14時～16時)

大学会館

(1) 利用目的

学生相互並びに学生と教職員間の人間関係を緊密にし、かつ、学生の教養を高め、豊かな人間性・社会性を涵養するための課外教育活動を盛んにし、またその厚生福祉に寄与することを目的にしている。

(2) 開館時間 午前9時から午後9時まで

(3) 休館日 日曜日・祝日及び

12月29日から翌年1月3日まで



● 1号館

建物名称	階別	施設名	用途等
1号館 (1,409㎡)	1	軽食堂	喫茶、食事 (64席)
		理髪室	理髪 (4台)
	2	共用談話室	休憩、談話 (52人)
		音楽鑑賞室	音楽鑑賞 (56人)
		会議室(1・2)	会議、研究会等 (42人・20人)
	3	和室(1～5)	会議及び邦楽、茶道、華道等の練習
			8帖 2室 12帖 2室 45.5帖 1室
	4	ホール	音楽会、講演会、研究会等 (300人)
2号館 (779㎡)	1	小集会室	会議、展示会等
		サークル連絡室	サークル活動
	2	サークル連絡室	サークル活動
3号館 (422㎡)	1	大集会室	音楽会、講演会、映画会、研究会等 (500人)
4号館 (448㎡)	1	厚生センター	書籍、日用品等の購売

国際交流会館

国際交流会館は、本学の外国人留学生及び本学において教育・研究に従事する外国人研究者に対し居住の場を提供し、国際交流の促進に資することを目的に1号館が昭和54年4月に2号館が平成6年10月に設置された。

平成13年5月1日現在、25ヶ国72名の外国人留学生、外国人研究者が居住している。



●国際交流会館

(1号館)

室名	面積(m ²)	室数
単身室	12	35室
夫婦室	39	3室
家族室	59	2室
主事室	14	
事務室	16	
談話室	47	
娯楽室	94	
和室	25	
補食室	5~12	4室
浴室	3~8	4室
洗濯室	10	4室
管理人室	52	
倉庫	7	

備考：延面積 1,430m² 建物構造 RC4

(2号館)

室名	面積(m ²)	室数
単身室	12	30室
夫婦室	40	6室
家族室	58	4室
補食室	11	4室
洗濯シャワー室	11	4室
ラウンジコーナー	39	
談話コーナー	14	

備考：延面積 1,259m² 建物構造 R4

体育施設

陸上競技場、球技場などの体育施設は、正課はもちろんのこと52団体、1,000余名の体育系サークル（課外活動）に利用されている。課外活動は、大学教育における人間形成の上で必要不可欠であり、各キャンパス毎に各施設を有している。特に郡元キャンパスの陸上競技場、球技場、テニスコートなどには夜間照明が設置され、午後9時まで使用できる。



●サークル活動

施設名	所在地	種目
陸上競技場(400m)	郡元地区	陸上競技
球技場	〃	サッカー・ラグビー・ハンドボール
〃	桜ヶ丘地区	準硬式野球・サッカー・ラグビー
野球場	〃	硬式野球
グラウンド	〃	準硬式野球
テニスコート	郡元地区	硬式庭球・ソフトテニス
〃	桜ヶ丘地区	硬式庭球・ソフトテニス
第1体育館	郡元地区	体操・バスケットボール・バレーボール・バドミントン・ハンドボール
第2体育館	〃	バスケットボール・バレーボール・バドミントン・卓球・トレーニング
桜ヶ丘体育館	桜ヶ丘地区	卓球・バレーボール・バスケットボール・バドミントン・ハンドボール
武道館	郡元地区	柔道・剣道
課外活動施設	桜ヶ丘地区	柔道・剣道・空手道
馬房(厩舎)	郡元地区	馬術
室内プール(50m)	〃	水泳
平川艇庫	平川町海岸	ヨット
磯艇庫	磯海岸	ボート
鴨池艇庫	鴨池臨海地	カッター
弓道場	郡元地区	弓道
〃	桜ヶ丘地区	弓道

食堂



食堂名	延面積	席数	所在地
中央食堂	1,347m ²	520席	統合地区(郡元地区)
郡元南食堂	882m ²	174席	教育学部内(〃)
桜ヶ丘会館	417m ²	160席	医学部内(桜ヶ丘地区)
水産学部食堂	350m ²	128席	水産学部内(下荒田地区)

学生寮



区分 棟名	建物	延面積 (m ²)	収容定員 (名)
A棟	鉄筋5階建	1,412	76
B棟	〃	1,568	92
C棟 (対岳寮・黒潮寮)	鉄筋2階建	629	64
女子寮 (清明寮)	鉄筋4階建	1,600	81
共用棟	鉄筋1階建	317	
桜ヶ丘寄宿舎	鉄筋5階建	2,696	99
合計		8,222	443



全学合同研究プロジェクト

1. 大地・食・人間の健康を保全する環境革命への試行－鹿児島県をケーススタディーとして－（平成9年度～）

本研究プロジェクトは、食糧、健康、地球環境の諸問題を環境保全型農水産業を軸として解決しようとするものである。戦後の食糧不足の時代には、食物の量のみが求められていたために、作物生産に多量の化学肥料と農薬が使用されてきたが、昨今は「食と健康」に対する国民の関心が急速に高まり、残留農薬等による健康への害が問題視されるようになった。

過剰な農薬や化学肥料の施用を抑え、安全で健康な作物をつくるためには、有機質肥料を施用し、地力のある土壌をつくる必要があるが、昨今は地力が低下し、残留農薬等による土壌や作物の汚染が進行している。また、食生活の西欧化により巨大化した畜産業からは膨大な畜産廃棄物が生じ、一方では、沿岸域における種々の高級魚の大量養殖が深刻な海洋汚染を引き起こし、さらに工業分野においても多量の環境汚染物質が廃棄され、人類の生存を脅かしている。特に鹿児島県では、畜産廃棄物による環境汚染や茶畑での過剰施肥が問題になっている。

そこで、鹿児島大学を構成する全学部及び医療技術短期大学部等全学を挙げての総合的研究を実施した。内容は、①大地の健康と持続的食糧生産、②食物と健康、③地球環境と人間生活、の3課題について、各課題の研究者が相互に補完し合いながら総合的な研究成果を上げることを目指している。

平成9年度に開始した本研究プロジェクトには、平成10年度以降、学内外の研究者や技術者約140名が約60課題に参加している。地域の問題を解決し、得られた成果を社会へ還元するために、市民向けシンポジウムと研究成果発表会を毎年行っており、平成11年度には地域住民との連携をさらに深めるための企画として、奄美大島で「水問題 in 奄美」、屋久島で「屋久島の森林と水」のミニシンポジウムを、鹿児島市で「合鴨農法ワークショップ」を開催した。また、平成12年度にはワークショップ「畜産における土着微生物の利用」を開催し、学内外から800名を超える研究者、農業者、市民が参加した。平成12年度研究成果報告会においても前年度と同様、全課題の研究成果をパネル展示と口頭で発表し、280名を超える参加者を得て、熱心な討論、研究交流が行われた。本研究プロジェクトでは毎年度研究成果報告書を作成し、学内外に配布して広く活用することを薦めている。

本研究の成果の一部はすでに地域社会に還元されているが、今後さらに特定地域を対象にした学際的なプロジェクトとして発展させようとしている。

2. 新しい関係性を求めて－コミュニケーションの諸相－（平成10年度～）

このプロジェクトのテーマを「新しい関係性を求めて－コミュニケーションの諸相－」と設定したのは、現代社会に顕著になっている関係性の希薄化ないしはその崩壊という現象に対して、何らかの解決策を講じえないのかという発想に基づいている。

その際に、人間関係という問題設定をとらずに、「関係性」としたのは、この社会現象が単に人と人との関係のみならず、人と各種集団との間、集団と集団との間、それに人と物や事との間にも起こっているからである。従来は、たとえば人と人との関係性の崩壊は、その両者が同一の広義の文化的基盤に立っているという前提の下に、意思の疎通の問題とか心理的葛藤の問題としてむしろ個別的に論じられてきた。また、人と社会との関係性の希薄化の現象も疎外という概念で論じられてきた。しかしこれらの現象の起因するところはもっと根深いところにあり、かつその原因の追求がかならずしも従来の方法のみでは可能でなくなってきた。

この疑問に対する解答を予測してくれるのがコミュニケーションという概念である。ここではコミュニケーションという概念を、一般的に使われる意思の疎通とかマスコミとかの狭義を含みこみながら、物や事という情報の移動に伴う情報の平均化の意味に使うが、このプロジェクトでコミュニケーションという概念をとりあげたのは、現代社会に顕在化している関係性の崩壊現象の真の原因はコミュニケーションの不成立にあるのではないかという予測が成りたつからである。

そこでコミュニケーションの不成立の原因とそれに対する解決策を追求するために、コミュニケーション成立の要件としてのメッセージ・コード・メディアの三者を、個別的にあるいは総合的に分析していくことから作業を始める。その意味でこの三者はいわば作業仮説であり、コミュニケーション行為におけるメッセージの発信点と到着点との間で、より効果的にコミュニケーションが成立するための、メッセージ・コード・メディアの特性の追求がまずなされなければならないことになる。としても、このプロジェクトの研究対象は広範囲に及ぶために、この三者の作業仮説はそれぞれの研究分野で柔軟に応用されていくことが必要である。

以上のような観点から、コミュニケーションの諸相の分析を通じて、新しい関係性の構築に対して示唆を与えようとするのがこのプロジェクトの主旨である。

このプロジェクトでは、研究の推進のために、初年度に9つ、2年目からは11のグループを設けた。各グループの研究テーマは、「1、メディアとメッセージ」「2、コード」「3、情報の認識モデルとメディア交換」「4、コミュニケーションギャップ」「5、法的交渉」「6、医療・福祉におけるコミュニケーション」「7、歯科医療と顔（平成11年度より参加）」「8、教育現場におけるコミュニケーション」「9、政策決定におけるコミュニケーション」「10、情報管理」「11、コミュニケーションと外国語学習（平成11年度より参加）」である。

研究成果は、『新しい関係性を求めて－コミュニケーションの諸相－№1』（平成11年3月、386頁）、『新しい関係性を求めて－コミュニケーションの諸相－№2』（平成12年3月、436頁）、『新しい関係性を求めて－コミュニケーションの諸相－№3』（平成13年3月、466頁）としてまとめられている。

3. <環境プロジェクト> 開放系／半開放系のゴミ処理と地域資源循環型社会の構築に関する研究（平成11年度～）

教育と知的情報生産の場としての大学から、その活動の結果として大量の廃棄物（生ゴミ、排泄物、紙、使用済み薬品、研究機器廃品等）が発生し、それらは地域に排出されている。生態系としての大学は開放系である。他方、鹿児島県は、離島を多く有し、島に特徴的な半解放系の物質とエネルギーの循環が見られるが、島に特有のごみ問題が発生している。特に世界自然遺産に指定された屋久島は自然と共生を進めながら、社会的展開をはかることを目指すエコタウンプロジェクトが計画されている。それはごみの再利用資源化のみならず、農／林／水産などの島での生産体系と生活環境が深く関わり、自然環境に調和したエコタウンの実現には解決しなければならない。ここには多くの技術的問題だけでなく、住民意識の問題も存在する。

現在、「生ゴミ」をモデルケースにしての、ゴミ処理についての複数の技術の比較を行い、現実的で優れた処理技術システムの開発を追求しつつある。また、ごみ処理についての人間行動学的な調査を進め、有効な処理方法を確立するための基礎データを収集しつつある。

現在本プロジェクトで導入し、使用されている生ゴミ処理機器は長期にわたり使用可能なもので、研究終了後はしかるべき組織が運用を受け継ぎ、鹿児島大学のエコキャンパス化の基盤の一つになることが期待されている。

一方、屋久島においては、ごみの再利用（熱源としてのガス、発電、有機肥料、建築素材等）についての研究を行っているが、平成12年度において民活により総合有機質系廃棄物によるエネルギー化へのパイロットプランを建設した。今後、島内における自然と共生できる産業の創生が期待されている。このごみ処理問題を手がかりとして、屋久島でのヒトと自然が現在共存できるような生産システムの在り方を探り、地域資源循環型の社会システム＝エコタウンの構築の可能性を探る。

4. 地域学の創造－新しい鹿児島学－（平成12年度～）

本プロジェクトのテーマは、「地域学の創造－新しい鹿児島学－」である。これまで、日本における地方国立大学は、研究・教育という側面を重視し、人材育成という点から間接的に地域社会との関わりを持ってきたが、直接的に地域貢献に乗り出すことは概して少なかった。すなわち、日本に於ける地方国立大学は、知的資源の貯蔵庫としての役割を持ちながら、地域への還元という点では不十分な成果しか挙げてこなかったのである。これは、地域にとっても、地域に生きる大学にとっても不幸なことであった。現在、地方国立大学に対しては、こうした点への取り組みの必要性が社会的に強く求められるようになってきている。鹿児島大学においては、こうした認識に基づき、平成12年度、田中弘允学長の発案に基づき、大学を地域社会再構築の核とすべく、全学プロジェクト「地域学の創造－新しい鹿児島学－」を立ち上げることになった。現在、地域社会は、環境問題、福祉問題、財政問題など様々な地域問題に直面している。大学はその性格上、目前の問題を即座に解決する能力には乏しい。しかし、その蓄積した知的資源と総合大学としての学際性という可能性、そして利害にとらわれないという立場を十分に活用するならば、中長期的な観点に立って、来るべき環境共生型社会としての地域社会の将来像を構築することは可能である。

以上のような認識のもとに、今回、鹿児島大学における地域研究の各専門家に呼びかけ、環境と共生をキーワードとして、学問の壁を超えた協力体制を組み、過去を展望し、現在を読み解き、未来を志向する地域学として全学プロジェクト「新しい鹿児島学」を立ち上げるものである。

本プロジェクトにおいては、全体を、14のグループに分けて研究を進める。

社会のレベル：（1）鹿児島県の環境問題 （2）鹿児島県の経済と環境 （3）鹿児島県のマルチメディア環境。

自然のレベル：（4）鹿児島県の自然環境 （5）鹿児島県の地域農業と食品 （6）鹿児島県の都市景観と住生活。

文化のレベル：（7）近世薩摩の学術と玉里島津家資料 （8）鹿児島県の古代と考古学 （9）鹿児島県の言語と文学
（10）鹿児島県の国際交流。

人間のレベル：（11）鹿児島県の地域医療 （12）鹿児島県の精神風土 （13）鹿児島県の生涯体育・スポーツ （14）鹿児島県の教育。

5. 離島の豊かな発展のための学際的研究－離島学の構築－（平成12年度～）

離島は国土の保全、海洋資源の利用、自然環境の保全などに極めて重要な役割を果たしています。とくに、鹿児島県の離島は東洋のガラパゴスといわれるように貴重な野生生物などが生息する豊かな陸と海の自然に恵まれており、特色のある風俗と文化などがある学術研究の宝庫であります。一方、鹿児島県の離島の大半は隔離性の強い外海離島で、しかも台風常襲地帯に位置することから、災害を受けやすく、本土との交通が途絶し、孤立してしまう場合があるなど自然的にはもとより、所得格差、過疎、高齢化の発展など経済的、社会的にも厳しい条件下に置かれています。

本研究の目的は鹿児島県の離島の自然、文化、社会の特性を明らかにし、その特性を生かした学術研究の発展、自然環境の保全、文化の継承と発展、農林水産観光産業の振興と離島の厳しい条件の改善、解消、教育、福祉、保険医療の充実を図る総合方策を作成し、政策などを提言することにあります。さらに実践的に研究を継続し、離島に豊かなゆとりのある地域社会を築くための方略を明らかにし、これらの成果に基づき、離島の自然と文化、社会の特性と離島の社会発展の基本法則を明らかにする学問、『離島学』の体系化を試みることであります。

本研究プロジェクトは鹿児島大学の8学部の研究者から構成され、学部の壁を越えて、地域に立脚する大学として、地域の課題に学際的に取り組み、その成果を鹿児島県の離島へ還元し、さらに、数多くある世界の離島へ発信することをめざしています。

職員の現員

●現 員

(平成13年5月1日現在)

部 局	職 別	学 長	教 授	助教授	講 師	助 手	教 諭	小 計	事務官 技官等	合 計
学 務 局	長	1						1		1
附 属 図 書 館									160	160
桜ヶ丘分館									19	19
水産学部分館									4	4
保健管理センター			1	1				2	2	3
地域共同研究センター				1				1		1
総合情報処理センター				1				1	3	4
遺伝子実験施設				1		1		2		2
多島圏研究センター			3	1				4		4
アイソトープ総合センター				1				1		1
留学生センター				4				4		4
総合研究博物館			1	2		1		4		4
機器分析センター				1				1	3	4
法 文 学 部			53	59	1	6		119	14	133
教 育 学 部			63	45	2			110	28	138
附属教育実践研究指導センター			1					1		1
附 属 小 学 校							36	36	5	41
附 属 中 学 校							31	31	2	33
附 属 養 護 学 校							27	27	3	30
附 属 幼 稚 園							4	4		4
理 学 部			39	29	3	13		84	16	100
附属南西島弧地震火山観測所				1		1		2	1	3
医 学 部			62	31	23	75		191	52	243
附属腫瘍研究施設			1			3		4		4
附属動物実験施設				1		1		2	3	5
附属難治性ウイルス疾患研究センター			3	2				5		5
附 属 病 院			2	6	30	69		107	496	603
歯 学 部			16	13	4	65		98	44	142
附 属 病 院			1	1	13	31		46	88	134
工 学 部			52	47	2	31		132	52	184
農 学 部			44	33	13	16		106	29	135
附 属 農 場			1		1	1		3	21	24
附 属 演 習 林				2				2	8	10
附 属 家 畜 病 院			1					1	2	3
水 産 学 部			20	17	6	6		49	19	66
附属練習船かごしま丸				1	1	1		3	22	25
附属練習船敬天丸				1		2		3	18	21
実 習 船 南 星 丸						1		1	5	6
附属海洋資源環境教育研究センター			2	1		1		4	3	9
大 学 院 連 合 農 学 研 究 科			1 (121)	(51)		(34)		1 (206)		1 (206)
医 療 技 術 短 期 大 学 部			(25)	(9)	(7)	(20)		(61)		(61)
計		1	367 (146)	303 (60)	99 (7)	325 (54)	98	1,193 (267)	1,123	2,316 (267)

(注) 1. () 書きは、兼任、併任教官数を外数で示す。

学生の定員・現員 平成13年5月1日現在

●学 部

学 部 名	学 科 ・ 課 程	入学 定員	3年次編 入学定員	現 員						
				1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計
法文学部	法 政 策 学 科	125	10	131(61)	127(44)	140(60)	165(53)			563(218)
	経 済 情 報 学 科	145		161(84)	157(82)	148(58)	189(56)			655(280)
	人 文 学 科	155		167(124)	167(115)	190(133)	200(134)			724(506)
	法 学 科			—	—	—	26(5)			26(5)
	経 済 学 科			—	—	—	20(0)			20(0)
	小 計	425	10	459(269)	451(241)	478(251)	600(248)			1,988(1,009)
教育学部	学校教育教員養成課程	225		233(121)	239(125)	238(120)	310(147)			1,020(513)
	養護学校教員養成課程	15		15(9)	15(12)	13(13)	21(16)			64(50)
	生涯教育総合課程	35		45(29)	39(27)	39(25)	49(34)			172(115)
	小学校教員養成課程			—	—	—	21(5)			21(5)
	中学校教員養成課程			—	—	—	14(2)			14(2)
	特別教科(保健体育)教員養成課程			—	—	—	6(0)			6(0)
	小 計	275		293(159)	293(164)	290(158)	421(204)			1,297(685)
理学部	数 理 情 報 科 学 科	40		45(10)	44(10)	69(12)	42(11)			200(43)
	物 理 科 学 科	45		45(4)	49(14)	72(4)	44(10)			210(32)
	生 命 化 学 科	50		51(23)	54(23)	64(21)	49(30)			218(97)
	地 球 環 境 科 学 科	50		50(19)	51(17)	70(25)	45(12)			216(73)
	数 学 科			—	—	4(2)	2(0)			6(2)
	物 理 学 科			—	—	11(0)	7(0)			18(0)
	化 学 科			—	—	3(0)				3(0)
	地 学 科			—	—	2(0)	2(0)			4(0)
	小 計	185		191(56)	198(64)	295(64)	191(63)			875(247)
医学部	医 学 科	85	*10	85(25)	87(25)	94(36)	123(34)	118(34)	116(32)	623(186)
	保 健 学 科	120	20	123(110)	119(101)	136(116)	—			378(327)
	小 計	205	30	208(135)	206(126)	230(152)	123(34)	118(34)	116(32)	1,001(513)
歯学部	歯 学 科	60		62(20)	71(22)	80(21)	57(14)	68(22)	58(14)	396(113)
工学部	機 械 工 学 科	100	10	101(2)	117(3)	155(1)	100(1)			473(7)
	電 気 電 子 工 学 科	80		110(5)	98(6)	110(6)	88(0)			406(17)
	建 築 学 科	60		69(13)	80(12)	78(14)	62(10)			289(49)
	応 用 化 学 工 学 科	65		68(14)	66(20)	92(13)	66(14)			292(61)
	海 洋 土 木 工 学 科	50		50(2)	50(4)	85(1)	42(2)			227(9)
	情 報 工 学 科	60		62(4)	64(4)	92(8)	60(7)			278(23)
	生 体 工 学 科	60		64(22)	75(17)	75(23)	53(10)			267(72)
	小 計	475	10	524(62)	550(66)	687(66)	471(44)			2,232(238)
農学部	生 物 生 産 学 科	80		88(52)	84(44)	91(45)	112(38)			375(179)
	生 物 資 源 化 学 科	60		66(34)	65(29)	65(30)	84(41)			280(134)
	生 物 環 境 学 科	65		72(27)	70(26)	68(20)	89(31)			299(104)
	獣 医 学 科	30		32(16)	32(9)	33(18)	33(19)	30(13)	35(17)	195(92)
	小 計	235		258(129)	251(108)	257(113)	318(129)	30(13)	35(17)	1,149(509)
水産学部	水 産 学 科	130		139(47)	159(61)	121(40)	138(34)			557(182)
	水 産 教 員 養 成 課 程	10		14(7)	11(3)	13(7)	12(2)			50(19)
	小 計	140		153(54)	170(64)	134(47)	150(36)			607(201)
計		2,000	50	2,148(884)	2,190(855)	2,451(872)	2,331(772)	216(69)	209(63)	9,545(3,515)

- (注) 1. () は女子を内数で示す。
2. 現員には外国人留学生を含む。
3. ※印は2年次後期編入学定員である。

●大学院

研 究 科 名	入 学 定 員	現 員								
		修 士 課 程 (博士前期)			博 士 課 程 (博士後期)					合 計
		1 年	2 年	計	1 年	2 年	3 年	4 年	計	
人文社会科学研究科	38	35(16)	55(16)	90(32)						90(32)
法 学 研 究 科			1(0)	1(0)						1(0)
人 文 学 研 究 科			1(1)	1(1)						1(1)
教 育 学 研 究 科	38	54(19)	46(24)	100(43)						100(43)
医 学 研 究 科	58				51(7)	63(10)	33(8)	100(18)	247(43)	247(43)
歯 学 研 究 科	18				15(5)	4(0)	12(2)	7(3)	38(10)	38(10)
理 工 学 研 究 科	203	237(24)	257(39)	494(63)						494(63)
	23				38(2)	44(7)	38(5)		120(14)	120(14)
農 学 研 究 科	68	46(9)	57(25)	103(34)						103(34)
水 産 学 研 究 科	32	41(13)	36(9)	77(22)						77(22)
連 合 農 学 研 究 科	22				63(12)	53(10)	65(18)		181(40)	181(40)
計	500	413(81)	453(114)	866(195)	167(26)	164(27)	148(33)	107(21)	586(107)	1,452(302)
山口大学大学院連合獣医学研究科	12				2(0)	2(0)	3(0)	1(0)	8(0)	8(0)

- (注) 1. () は女子を内数で示す。
2. 現員には外国人留学生を含む。
3. 連合農学研究科は鹿児島・佐賀・宮崎・琉球の4大学の構成によるものである。
4. 山口大学大学院連合獣医学研究科の現員数は、鹿児島大学（指導教官）に属する学生数である。

※社会人在学生の職業別内訳

研究科名	職業別	学 校 教 育			公務員（教員を除く）			民間企業等	合 計
		公立	私立	計	国	地方	計		
人 文 社 会 学 研 究 科					4	1	5	12	17
法 学 研 究 科		1		1					1
教 育 学 研 究 科		24	1	25				1	26
医 学 研 究 科					35	20	55	43	98
歯 学 研 究 科					1		1	1	2
理 工 学 研 究 科	博士前期	1		1	1	3	4	1	6
	博士後期	7	9	16	1	6	7	17	40
農 学 研 究 科									0
水 産 学 研 究 科								1	1
連 合 農 学 研 究 科		4	3	7	3	6	9	6	22
計		37	13	50	45	36	81	82	213
山口大学大学院連合獣医学研究科								3	3

- (注) 1. 上記「●大学院」の院生数（現員）のうち社会人在学生を職業別に計上した。

●専攻科

専 攻 科 名	入 学 定 員	現 員
水 産 専 攻 科	40	11 (1)

- (注) 1. () は女子を内数で示す。

●医療技術短期大学部（※平成11年4月 医学部保健学科に改組）

学 科 等 名	入 学 定 員	現 員
専 攻 科 助 産 学 特 別 専 攻	20	20 (0)
専 攻 科 地 域 看 護 学 特 別 専 攻	20	20 (0)
計	40	40 (0)

- (注) 1. () は男子を内数で示す。

●教育学部附属学校

学 校 名	学級区分	入学定員	現 員							学 級 数
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計	
附 属 小 学 校	普通学級	160	159	160	159	156	163	162	959	各学年 4 学級 計 24 学級
	複式学級	10	10	10	10	10			40	1・2 年で 1 学級 3・4 年で 1 学級 計 2 学級
	計	170	169	170	169	166	163	162	999	

学 校 名	学級区分	入学定員	現 員				学 級 数
			1 年	2 年	3 年	計	
附 属 中 学 校	普通学級	200	203	200	200	603	各学年 5 学級 計 15 学級

学 校 名	学級区分	入学定員	現 員							学 級 数
			1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	計	
附属養護学校	小学部	3	3	3	3	3	3	3	18	1 学年・2 学年で 1 学級 3 学年・4 学年で 1 学級 5 学年・6 学年で 1 学級 計 3 学級
	中学部	6	6	6	5				17	各学年 1 学級 計 3 学級
	高等部	8	8	8	8				24	各学年 1 学級 計 3 学級

学 校 名	入園定員	現 員				学 級 数
		3 才児	4 才児	5 才児	計	
附 属 幼 稚 園	20	18			18	3 才児、4 才児、5 才児 各 1 学級 計 3 学級
	35		33	28	61	



●附属中学校の総合的な学習（薩摩の食文化コース）



●附属養護学校における校外宿泊学習

外国人留学生 平成13年 5月1日現在

(出身国別) ※43の国・地域 322名

地 域	国 名	法文学部	教育学部	理学部	医学部	歯学部	工学部	農学部	水産学部	連合農学研究科	留学生センター	合 計
ア	パキスタン				1 (1)		1 (1)				1 (1)	3 (3)
	インドネシア									3 (2)	1 (1)	4 (3)
	ネパール									1 (1)		1 (1)
	バングラデシュ				2		1 (1)		2 (2)	13 (9)		18 (12)
	スリランカ									3 (3)		3 (3)
ジ	ミャンマー						1	1	2 (2)	3 (3)		7 (5)
	ベトナム		1			1 (1)	2 (2)	1	1 (1)	3 (2)	1 (1)	8 (4)
	マレーシア			1 (1)			16	1 (1)		3 (2)		21 (4)
	シンガポール						1 (1)					1 (1)
	インドネシア	1 (1)	1 (1)	2 (1)			3 (1)	2 (1)	1 (1)	19 (13)		29 (19)
ア	フィリピン			3 (3)	2 (2)				2 (2)	4 (4)	3 (3)	14 (14)
	中国	9 (1)	16 (2)	11 (1)	22 (4)	1	32 (2)	16	2	23 (8)		134 (18)
	韓国	1	3 (1)		1	1	4 (2)		1	1		4
	モルゴジブ				2 (2)					6 (3)		14 (6)
	カセンボジブ									1 (1)		2 (2)
中近東	サウジアラビア									1 (1)		1 (1)
	ヨルダン				1 (1)		1			1 (1)		3 (2)
	イエメン							1 (1)				1 (1)
	イラン				2 (2)					2 (1)		4 (3)
	オーストラリア		1		1		2					4
大洋州	パプアニューギニア									1		2
	セネガル			1 (1)								1 (1)
	ギニア				1 (1)							1 (1)
	エジプト			1 (1)					1	2 (1)		4 (2)
	タンザニア							1		1 (1)		2 (1)
アフリカ	モーリタニア							1 (1)				1 (1)
	ガーナ										1 (1)	1 (1)
	ルーマニア									1 (1)		1 (1)
	オランダ							1				1
	アメリカ合衆国							1		1 (1)		2 (1)
メ	メキシコ								1 (1)	1 (1)	1 (1)	3 (3)
	アルゼンチン	1					1 (1)		1 (1)			3 (2)
	ブラジル	2				2 (1)	1 (1)			1		6 (2)
	ボリビア				1 (1)							1 (1)
	コロンビア				1				1	1 (1)	1 (1)	4 (2)
リ	パナマ						1 (1)					1 (1)
	カナダ			1 (1)								1 (1)
	ペルー				1							1
	ホンジュラス							1 (1)				1 (1)
	グアテマラ										1 (1)	1 (1)
合 計		14 (2)	22 (4)	21 (9)	38 (14)	5 (2)	69 (14)	27 (5)	17 (10)	99 (60)	10 (10)	322 (130)

*○印内は内数で国費留学生

(経費種別)

種 別	大 学 院 生	学 部 学 生	研 究 生	科目等履修生	特別研究学生	特別聴講学生	日本語研コース生	合 計
国 費 留 学 生	117 (32)	1 (1)		2 (2)			10 (4)	130 (39)
マレーシア政府派遣		10 (5)						10 (5)
インドネシア政府派遣	2							2
タイ政府派遣	1 (1)							1 (1)
イラン政府派遣	1							1
鹿児島県費留学生			4 (4)					4 (4)
短期推進制度による留学生					2	5 (1)		7 (1)
私 費 留 学 生	107 (41)	40 (11)	14 (4)	1 (1)	2 (1)	3 (2)		167 (60)
私 費 留 学 生	228 (74)	51 (17)	18 (8)	3 (3)	4 (1)	8 (3)	10 (4)	322 (110)

() は女子を内数で示す。

(学部別)

学 部	国 費		外 国 政 府 派 遣		私 費		合 計
	学部学生	研究生等	学部学生	研究生等	学部学生	研究生等	
法 文 学 部					7 (1)	3 (3)	10 (4)
教 育 学 部		2 (2)			1 (1)	8 (5)	11 (8)
理 学 学 部					8		8
医 学 学 部					4 (3)	2 (1)	6 (4)
歯 学 学 部					1	2 (1)	3 (1)
工 学 学 部	1 (1)		10 (5)		9	5 (2)	25 (8)
農 学 学 部					7 (5)	3 (1)	10 (6)
水 産 学 部					3 (1)	1	4 (1)
計	1 (1)	2 (2)	10 (5)		40 (11)	24 (13)	77 (32)

() は女子を内数で示す。

(大学院別)

研 究 科	国 費				外 国 政 府 派 遣				私 費				合 計
	修士・博士前期		博士・博士後期		修士・博士前期		博士・博士後期		修士・博士前期		博士・博士後期		
	大学院生	研究生等	大学院生	研究生等	大学院生	研究生等	大学院生	研究生等	大学院生	研究生等	大学院生	研究生等	
人文社会科学研究科	2 (2)								2 (1)				4 (3)
教育学研究科	2 (1)								9 (7)				11 (8)
医学研究科			14 (6)								18 (7)		32 (13)
歯学研究科			2 (1)										2 (1)
理工学研究科	6 (3)		16 (4)						18 (7)	2	14 (4)	1	57 (18)
農学研究科	5 (1)								10 (3)	2			17 (4)
水産学研究科	10 (3)								1 (1)	2			13 (4)
連合農学研究科			60 (11)				4 (1)				35 (11)		99 (23)
留学生センター		10 (4)											10 (4)
合 計	25 (10)	10 (4)	92 (22)				4 (1)		40 (19)	6	67 (22)	1	245 (78)

() は女子を内数で示す。

入学状況 平成13年5月1日現在

●学 部

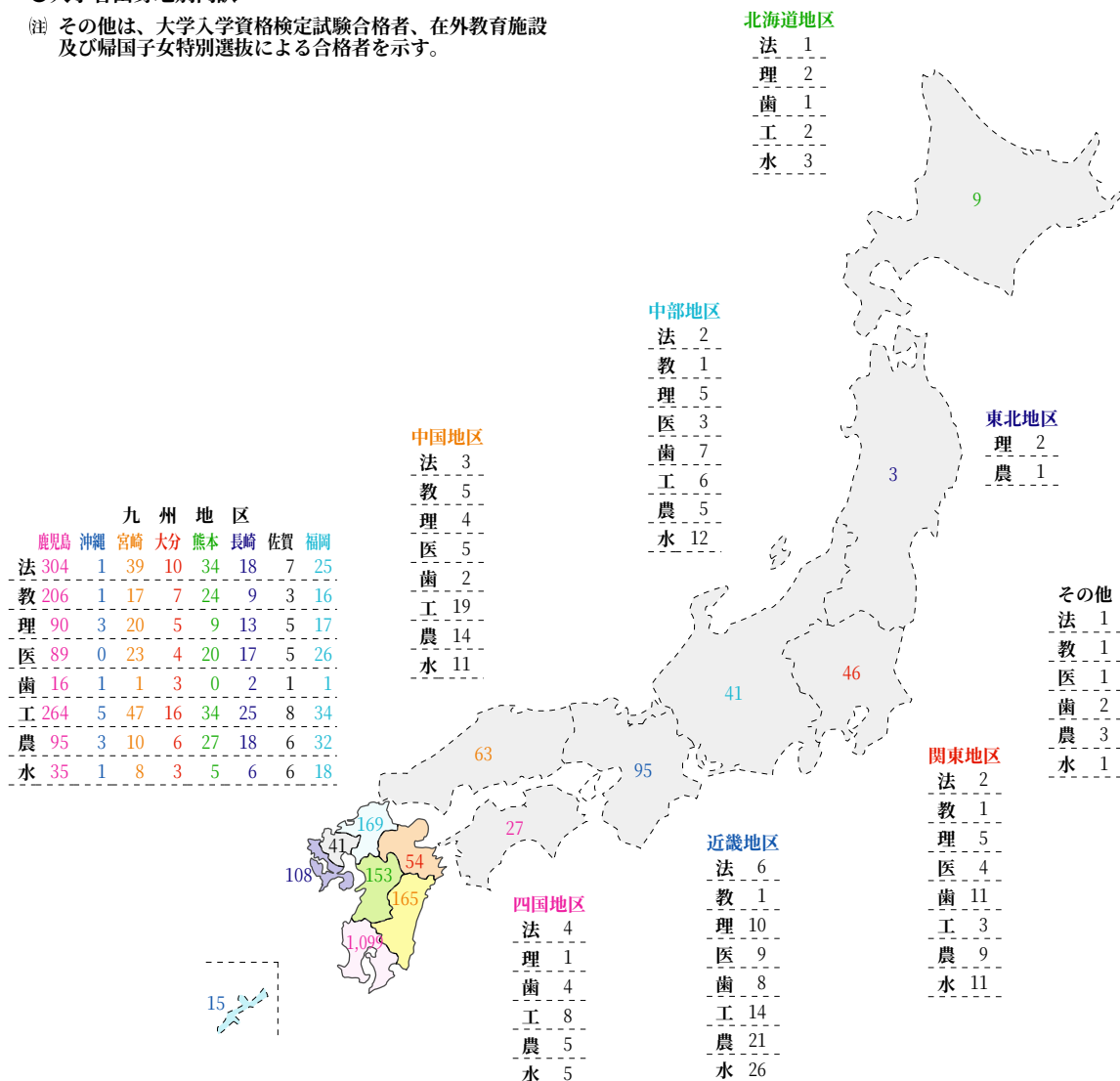
学 部 名	入学定員	志 願 者 数	入 学 者 数	入学者の出身地別 (百分比)	
				県 内	県 外
法 文 学 部	425	1,589 (872)	※2 ⁽⁰⁾ 457 (269)	66	34
教 育 学 部	275	1,398 (760)	※1 ⁽¹⁾ 292 (157)	71	29
理 学 部	185	579 (197)	191 (56)	47	53
医 学 部	205	1,071 (576)	※2 ⁽¹⁾ 206 (134)	43	57
歯 学 部	60	397 (127)	※1 ⁽⁰⁾ 60 (20)	27	73
工 学 部	475	1,699 (204)	※4 ⁽¹⁾ 485 (61)	54	46
農 学 部	235	1,021 (489)	※3 ⁽³⁾ 255 (126)	37	63
水 産 学 部	140	664 (226)	※2 ⁽¹⁾ 151 (53)	23	77
合 計	2,000	8,418 (3,451)	※15 ⁽⁷⁾ 2,097 (876)	52	48

(注) 1. () 内は女子を内数で示す。

2. ※印は私費外国人留学生(マレーシア政府派遣学部留学生を含む)を外数で、その内()は女子を内数で示す。

●入学者出身地別内訳

(注) その他は、大学入学資格検定試験合格者、在外教育施設及び帰国子女特別選抜による合格者を示す。



●大 学 院

研 究 科 名	入学定員	修 士 課 程 (博 士 前 期)		博 士 課 程 (博 士 後 期)		入学者の出身地 (百 分 比)	
		志願者数	入学者数	志願者数	入学者数	県 内	県 外
人 文 社 会 科 学 研 究 科	38	※ 3 (2) 51 (24)	※ 3 (2) 32 (14)			69	31
教 育 学 研 究 科	38	※10 (5) 60 (24)	※ 5 (2) 49 (17)			70	30
医 学 研 究 科	58			※ 7 (2) 34 (3)	※ 7 (2) 34 (3)	59	41
歯 学 研 究 科	18			※ 0 (0) 16 (6)	※ 0 (0) 14 (5)	79	21
理 工 学 研 究 科	203	※11 (4) 313 (30)	※ 9 (4) 228 (20)			40	60
	23			※13 (1) 28 (1)	※13 (1) 25 (1)	39	61
農 学 研 究 科	68	※ 7 (2) 48 (12)	※ 7 (2) 39 (7)			43	57
水 産 学 研 究 科	32	※ 6 (2) 38 (12)	※ 6 (2) 35 (11)			20	80
連 合 農 学 研 究 科	22			※32 (5) 32 (7)	※32 (5) 31 (7)	2	98
合 計	500	※37 (15) 510(102)	※30 (12) 383 (69)	※52 (8) 110 (17)	※52 (8) 104 (16)	47	53

平成12年度秋季入学

医 学 研 究 科				※ 4 (1) 9 (1)	※ 3 (1) 7 (1)	50	50
-----------	--	--	--	---------------------	---------------------	----	----

- (注) 1. () は女子を内数で示す。
2. ※は外国人留学生を外数でそのうち () は女子を内数で示す。

●専 攻 科

専 攻 科 名	入学定員	志 願 者 数	入 学 者 数	入学者の出身地 (百 分 比)	
				県 内	県 外
水 産 専 攻 科	40	11 (1)	11 (1)	27	73

- (注) 1. () 内は女子を内数で示す。

●医療技術短期大学部

専 攻 科 名	入学定員	志 願 者 数	入 学 者 数	入学者の出身地 (百 分 比)	
				県 内	県 外
助 産 学 特 別 専 攻	20	51 (0)	20 (0)	90	10
地 域 看 護 学 特 別 専 攻	20	80 (0)	20 (0)	75	25
合 計	40	131 (0)	40 (0)	82	18

- (注) 1. () 内は男子を内数で示す。

卒業(修了)生数及び就職状況 平成13年5月1日現在

●学部

学部名	卒業生数 累計	平成12年度 卒業生数	就職状況																
			就職希望者数	就職者数	就職率 (%)	業種別						地区別							
						農林業 漁業	建設業 製造業	卸小売 金融保険 サービス業	公務員	教員	その他	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	鹿児島 県	その他
法文学部	9,921	481	339	263	77.6		26	174	50	13		46	8	11	1	2	55	140	
教育学部	14,782	327	250	159	63.6		3	26	11	109	10	3	1	2	1		16	131	5
理学部	4,350	161	81	66	81.5	2	20	27	5	12		17	1	1			11	35	1
医学部	3,819	108																	
歯学部	1,182	58																	
工学部	11,594	431	224	204	91.1		109	70	16		9	71	8	6	2	1	48	68	
農学部	9,220	228	162	117	72.2	1	34	55	25		2	27	8	8	3	2	28	39	2
水産学部	5,658	152	91	65	71.4	15	8	31	5	5	1	16	1	2	11	2	11	22	
(文理学部)	2,651																		
計	63,177	1,946	1,147	874	76.2	18	200	383	112	139	22	180	27	30	18	7	169	435	8

(注) 1. 卒業生数(累計)は昭和24年5月本学設置以降の全数を計上した。ただし、医・工学部については昭和30年国立移管以降について計上した。
2. 卒業生数は9月卒業生を含む。

●大学院

研究科名	修士課程		博士課程	
	修了生数 (累計)	平成12年度 修了生数	修了生数 (累計)	平成12年度 修了生数
人文社会科学研究科	58	27		
法学研究科	123			
人文科学研究科	120	3		
教育学研究科	192	40		
医学研究科			407	13
歯学研究科			84	3
理工学研究科	2,341	204	105	27
農学研究科	1,226	43		
水産学研究科	721	45		
連合農学研究科			295	34
(理学研究科)	539			
計	5,320	362	891	77

(注) 1. 博士課程については、単位修得後退学した者は含まない。

●専攻科

専攻科名	修了生数 (累計)	平成12年度 修了生数
水産専攻科 (特設専攻科を含む)	642	9
(教育専攻科)	124	—
計	766	9

●医療技術短期大学部

学 科 等 名	(卒業生数 累計)	卒 業 生 数 平成12年度	就 職 者 数	進 学 者 数	そ の 他	就 職 状 況					
						鹿大病院	その他の病院・診療所		市 町 村 ・ 保 健 所		そ の 他
							県内	県外	県内	県外	
看 護 学 科	1,014	80	39	35	6	10	15	14			
理 学 療 法 学 科	253	19	16	3			9	7			
作 業 療 法 学 科	246	22	21	1			12	9			
専攻科助産学特別専攻	235	20	20				8	12			
専攻科地域看護学特別専攻	242	21	21				1	9	4	6	1
計	1,990	162	117	39	6	10	45	51	4	6	1

学位授与状況

(平成13年5月1日現在)

研究科名	修士		博士			
	累計	平成12年度授与	課程		論文	
			累計	平成12年度授与	累計	平成12年度授与
法学研究科	123					
人文科学研究科	120	3				
人文社会科学研究科	58	27				
教育学研究科	192	40				
理学研究科	539					
医学研究科			468	18	1,289	19
歯学研究科			97	3	43	2
理工学研究科	2,341	204	105	27	18	5
農学研究科	1,226	43				
水産学研究科	721	45				
連合農学研究科			324	38	37	5
計	5,320	362	994	86	1,387	31

(注) 1. 医学研究科については、国立移管後の数を計上した。

奨学生

(平成13年5月1日現在)

学部等名		在学生数	日本育英会			各種団体 育英会	計	在学生に対する 百分率
			第1種奨学生	第2種奨学生	きぼう21プラン			
学部	法文	1,988	325	20	154	60	559	28.1
	教育	1,297	230	19	114	31	394	30.4
	理	875	135	14	76	18	243	27.8
	医	623	62	17	65	56	200	32.1
	保健	378	47	0	53	18	118	31.2
	歯	396	50	8	66	13	137	34.6
	工	2,232	297	44	196	43	580	26.0
	農	1,149	145	13	111	25	294	25.6
	水産	607	79	4	57	7	147	24.2
部	計	9,545	1,370	139	892	271	2,672	28.0
	水産専攻科	11	4	0	1	0	5	45.5
	人文社会科学	90	16	0	6	0	22	24.4
	法学	1	0	0	0	0	0	0.0
	人文科学	1	0	0	0	0	0	0.0
	教育学	100	11	0	10	0	21	21.0
	理工学	494	48	0	79	0	127	25.7
	農学	103	8	0	14	1	23	22.3
	水産学	77	10	0	8	0	18	23.4
大学院 (修士)	計	866	93	0	117	1	211	24.4
	理工学	120	34	0	0	5	39	32.5
	医学	247	16	0	0	0	16	6.5
	歯学	38	14	0	0	0	14	36.8
	連合農学	181	34	0	0	0	34	18.8
	計	586	98	0	0	5	103	17.6
	大学院 (博士)							
	計	586	98	0	0	5	103	17.6
	合計	11,008	1,565	139	1,010	277	2,991	27.2

備考：奨学金月額

日本育英会（平成13年度入学者）

第1種奨学生 学部生：自宅通学42,000円 自宅外通学48,000円

大学院生：修士・博士前期課程85,000円 博士後期課程119,000円

きぼう21プラン 学部生：30,000・50,000・80,000・100,000円

大学院生：50,000・80,000・100,000・130,000円

各種団体育英会 10,000～51,000円

国際学術交流協定大学

●国際学術交流協定大学（31大学）

（平成12年度）

締結大学・年月日	締 結 母 体	協 定 内 容	受入者数	派遣者数	共同研究
（中国） 湘潭大学 昭和61年12月11日	大 学	学術刊行物の交換 教官・学生の交流 教官・学生の交流に関する援助及び便宜供与	19	1	0
（中国）※ 雲南農業大学 平成元年5月11日	農学部 大 学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流、共同研究・調査 出版物等の交換	3	6	1
（中国）※ 湖南農業大学 平成元年6月2日	農学部 大 学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流、共同研究・調査 出版物等の交換	7	6	1
（中国） 湖南医科大学 平成5年6月15日	大 学	研究者の交流 学生の交流、博士課程大学院学生の共同指導 共同研究・調査、学術出版物の交換	1	1	0
（中国）※ 中国医科大学 平成5年9月13日	医学部 大 学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流 共同研究・調査、出版物の交換	2	0	0
（中国）※ 湖南大学 平成7年8月23日	工学部 大 学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流 共同研究・調査、出版物の交換	2	3	1
（中国） 青島海洋大学 平成8年3月20日	大 学	研究者の交流、学生の交流 共同研究・調査の実施 学術出版物の交換	1	0	0
（中国）※ 南京化工大学 平成11年9月14日	大 学	研究者の交流、事務官・技官の交流 学生の交流、共同研究・調査 出版物の交換	0	0	0
（中国） 南開大学情報技術科学学院 平成11年12月27日	工学部	研究者の交流、事務官・技官の交流 学生の交流、共同研究・調査 出版物の交換	0	0	0
（韓国）※ 釜慶大学校 平成7年7月6日	水産学部 大 学	研究者の交流、学生の交流 共同研究・調査の実施 学術出版物の交換	4	1	0
（韓国）※ 全北大学校 平成9年4月22日	大 学	研究者の交流、事務官・技官の交流 学生の交流 学術出版物の交換、共同研究・調査の実施	2	1	0
（韓国） 群山大学校海洋科学大学 平成9年12月1日	水産学部	研究者の交流、学生の交流 共同研究・調査の実施 学術出版物の交換	1	0	0
（韓国）※ 済州大学校 平成10年1月30日	大 学	教職員の交流、研究員・学生の交流 共同研究・調査の実施 学術出版物の交換	3	7	1
（韓国）※ 群山看護大学 平成12年8月30日	大 学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流、共同研究・調査の実施 学術出版物の交換	10	0	0
（韓国）※ 圓光大学校 平成12年12月12日	大 学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流、共同研究・調査の実施 学術出版物の交換	18	1	0
（韓国）※ 江陵大学校 平成13年2月8日	大 学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流、共同研究・調査の実施 学術出版物の交換	18	0	0
（インド）※ マニパール工業大学 平成12年10月6日	工学部	研究者の交流、事務・技術職員の交流 学生の交流、共同研究・調査 出版物等の交換	0	1	1
（インドネシア） ボゴール農科大学 昭和57年12月24日	水産学部	教官・研究・研修の協力 教官・大学院学生の交流	3	1	0
（インドネシア）※ ディボネゴロ大学 平成12年3月2日	農学部	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流、共同研究・調査 出版物等の交換	0	3	0
（フィリピン） フィリピン大学ヴィサヤ校 平成10年2月26日	水産学部	研究者の交流 共同研究、セミナーの開催 学術出版物の交換	12	9	1
（タイ） チュラロンコン大学石油及び石油化学 研究科 平成12年7月28日	工学部	研究者の交流 事務・技術職員の交流 学生の交流、出版物等の交換	0	2	1
（南太平洋12ヶ国・地域）※ 南太平洋大学 昭和57年7月21日	大 学 水産学部 南太平洋海域研究センター	教官・博士課程修了者の交流、共同研究の推進 セミナー・研修の実施 学術情報の交換	0	0	0
（バブアニューギニア）※ バブアニューギニア大学 昭和62年5月29日	大 学 水産学部 南太平洋海域研究センター	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流、共同研究・調査 学術出版物等の交換	2	0	0
（バブアニューギニア） バブアニューギニア工科大学 平成元年12月1日	大 学 水産学部 南太平洋海域研究センター	熱帯太平洋域にかかわる海洋水産科学・総合科学分野に おける共同研究及び学術調査の推進 教官・学生の交流、セミナー・研修の実施、学術情報の交換	0	0	0
（オーストラリア）※ ニューイングランド大学 平成7年7月20日	教養部 大 学	教員・研究員の交流、事務官・技官等の交流 学生の受入れ・派遣、共同研究・調査の実施 学術出版物の情報交換	1	0	0
（オーストラリア）※ シドニー工科大学 平成12年3月1日	大 学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流、共同研究・調査 出版物等の交換	0	1	0
（アメリカ）※ ジョージア大学 昭和54年11月29日	農学部 大 学	教官・学生・事務官・技官の交流 共同研究プログラムの実施 学術出版物の交換	3	12	0
（アメリカ） マイアミ大学 平成4年11月30日	大 学	研究者の交流、学生の受入・派遣 共同研究・調査の実施 学術出版物の交換	0	5	0
（コロンビア）※ バジェ州立大学 平成7年8月30日	大 学	研究者の交流、学生の受入・派遣 共同研究・調査の実施 学術出版物の情報交換	4	1	0
（スペイン）※ バレンシア工芸大学 平成12年2月7日	大 学	研究者の交流、事務官・技官等の交流 学生の交流 共同研究・調査、出版物等の交換	2	0	0
（タンザニア）※ ンコイネ農科大学農学部 平成11年8月30日	農学部	教官・技官・事務官・学生の交流 共同研究と調査活動 学術出版物の交換	2	0	0
計			120	62	7

*印は、学生交流に関する覚書（授業料不徴収協定）を締結している大学を表す。

外国人研究者の受入状況

(平成12年度)

区 分	研究者数
外国人教師・講師	4
外国人研究員制度による研究員	2
外国人教員	18
国際協力事業団による研修員	20
日本学術振興会による研究員	28
外国政府等支弁による研究員	12
その他の外国人研究員	96
視 察 ・ 見 学	233
計	413



●学長一行の中国雲南農業大学への訪問

学術刊行物

部 局 等 名	刊 行 物 名	発行回数
法 文 学 部	鹿児島大学法文学部紀要（法学論集、経済学論集、人文学科論集）	年 2 回
	鹿児島大学法文学部国語国文学会誌（国語国文薩摩路）	年 1 回
	鹿大史学会誌（鹿大史学）	年 1 回
	鹿児島大学英文学会誌（鹿大英文学）	年 1 回
教 育 学 部	鹿児島大学教育学部研究紀要（人文・社会科学編、自然科学編、教育科学編）	年 1 回
	鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属小学校研究紀要	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属中学校研究紀要	年 1 回
	鹿児島大学教育学部附属養護学校研究紀要	隔年 1 回
理 学 部	鹿児島大学理学部紀要	年 1 回
医 学 部	Acta Medica Universitatis Kagoshimaensis	休 刊
	鹿児島大学医学雑誌	年 4 回
	鹿児島大学医学部保健学科紀要	年 2 回
歯 学 部	鹿児島大学歯学部紀要	年 1 回
工 学 部	鹿児島大学工学部研究報告	年 1 回
農 学 部	鹿児島大学農学部学術報告	年 1 回
	Memoirs of the Faculty of Agriculture Kagoshima University	年 1 回
	鹿児島大学農学部農場研究報告	年 1 回
	鹿児島大学農学部農場技術調査報告書	年 1 回
	鹿児島大学農学部演習林研究報告	年 1 回
水 産 学 部	鹿児島大学水産学部紀要	年 1 回
	Mini Review and Data File of Fisheries Reserch	隔年 1 回
保 健 管 理 セ ン タ ー	鹿児島大学保健管理センター年報	年 1 回
地 域 共 同 研 究 セ ン タ ー	鹿児島大学地域共同研究センター年報	年 1 回
	鹿児島大学地域共同研究センターニュース	年 2 回
総 合 情 報 処 理 セ ン タ ー	総合情報処理センター広報	年 1 回
遺 伝 子 実 験 施 設	遺伝子実験施設ニュースレター	年 2 回
多 島 圏 研 究 セ ン タ ー	南太平洋研究	年 2 回
	南太平洋海域調査研究報告	不 定 期
総 合 研 究 博 物 館	鹿児島大学総合研究博物館ニュースレター	年 3 回
	鹿児島大学総合研究博物館モノグラフ	不 定 期

研究員等の受入状況

(平成12年度)

区 分	受託研究員	内地研究員	公・私立大学 研 修 員	産 業 教 育 内 地 留 学 生	計
法 文 学 部					
教 育 学 部			1		1
理 学 部					
医 学 部	2				2
歯 学 部					
工 学 部		3			3
農 学 部				1	1
水 産 学 部					
計	2	3	1	1	7

歳入歳出決算 平成12年度

●歳 入

(単位：千円)

会 計 名	科 目	収 納 済 歳 入 額
国立学校特別会計	附 属 病 院 収 入	12,284,967
	授業料及び入学検定料	5,661,126
	学校財産処分収入	13,200
	雑 収 入	1,577,061
合 計		19,536,354

●歳 出

(単位：千円)

区 分	総 額	国 立 学 校	大学附属病院	産学連携等研究費	施設整備費	文部科学本省
国立学校特別会計	35,724,234	19,810,301	13,817,522	431,769	1,664,642	
一 般 会 計	344,471					344,471
合 計	36,068,705	19,810,301	13,817,522	431,769	1,664,642	344,471

各種学術研究費

●科学研究費補助金採択状況

(単位：千円)

学 部 等	平成9年度		平成10年度		平成11年度		平成12年度		平成13年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
総合情報処理センター	—	—	—	—	—	—	1	1,700	1	500
遺伝子実験施設	1	1,600	1	1,100	—	—	—	—	1	800
多島圏研究センター	—	—	—	—	2	1,700	1	700	1	1,000
総合研究博物館	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1,500
法 文 学 部	16	27,900	16	22,200	16	22,300	14	12,100	18	24,500
教 育 学 部	7	10,900	11	13,600	9	8,000	11	29,700	17	29,800
理 学 部	14	22,900	19	31,500	21	36,100	21	47,400	21	40,600
医 学 部	77	165,600	83	168,600	76	151,800	73	190,700	87	202,600
歯 学 部	44	62,200	50	65,300	44	85,800	51	122,000	57	94,300
工 学 部	43	75,700	42	74,900	38	79,600	40	124,900	38	90,600
農 学 部	32	73,400	38	87,900	34	70,600	33	48,900	28	70,300
水 産 学 部	5	8,000	8	14,000	6	10,400	8	12,800	7	10,400
教 養 部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
医療技術短期大学部	2	1,200	2	2,000	—	—	—	—	—	—
計	241	449,400	270	481,100	246	466,300	253	590,900	277	566,900

(注) 多島圏研究センターの平成9年度は、南太平洋海域研究センターの状況を示す。

●受託研究費受入状況

(単位：千円)

学 部 等	平成8年度		平成9年度		平成10年度		平成11年度		平成12年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
地 域 共 同 研 究 セ ン タ ー									1	500
教 育 学 部	1	762	1	943	1	943	1	943	3	5,793
理 学 部	1	2,286	2	2,825	3	2,983	2	7,598	4	43,628
医 学 部	56	152,090	46	105,472	51	121,141	48	136,669	44	107,056
歯 学 部	5	5,257	6	4,257	7	8,033	7	7,833	9	12,258
工 学 部	11	29,410	13	55,978	15	67,383	10	45,413	12	42,805
農 学 部	5	4,399	7	10,520	7	11,329	12	28,253	16	26,133
水 産 学 部	8	8,882	7	10,292	8	12,585	10	11,309	7	12,900
計	87	203,086	82	190,287	92	224,397	90	238,018	96	251,073

●奨学寄附金受入状況

(単位：千円)

学 部 等	平成8年度		平成9年度		平成10年度		平成11年度		平成12年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
事 務 局	4	2,569	3	1,220	4	1,556	3	1,037	5	1,808
保 健 管 理 セ ン タ ー	2	1,394					1	1,000		
多 島 圏 研 究 セ ン タ ー	2	500	1	300	4	3,100	3	960	1	500
附 属 図 書 館									1	1,700
法 文 学 部			5	4,081	4	4,600	6	8,180	4	2,240
教 育 学 部	7	6,200	12	8,646	17	8,811	13	4,720	17	16,760
理 学 部	17	7,096	18	13,548	22	16,151	13	9,680	9	12,940
医 学 部	816	645,449	792	634,743	806	771,156	827	649,979	868	686,413
歯 学 部	44	29,082	54	30,211	58	30,236	53	33,676	31	19,504
工 学 部	89	62,432	96	84,247	101	66,460	108	57,458	96	69,047
農 学 部	74	51,570	76	60,356	62	56,839	66	51,106	58	54,159
附 属 農 場	3	3,778	3	3,478	2	1,500	3	940	3	5,500
水 産 学 部	19	14,756	22	16,781	19	39,042	17	11,212	9	7,356
教 養 部	6	2,494								
医 療 技 術 短 期 大 学 部	13	3,400	14	6,299	8	2,290				
計	1,096	830,720	1,096	863,910	1,107	1,001,741	1,113	829,948	1,102	877,927

(注) 多島圏研究センターの平成8年度～平成9年度は、南太平洋海域研究センターの状況を示す。

●民間等との共同研究受入状況

(単位：千円)

学 部 等	平成8年度		平成9年度		平成10年度		平成11年度		平成12年度	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
地 域 共 同 研 究 セ ン タ ー			1	2,500	4	5,840	18	9,460	20	15,750
法 文 学 部							1	420		
教 育 学 部									1	420
理 学 部					2	1,000	2	840	3	1,760
医 学 部	1	1,024	2	2,064	3	4,984	6	5,504	6	5,364
歯 学 部			1	150	1	300	1	300	1	300
工 学 部	9	17,508	13	22,154	13	28,355	11	32,410	20	57,765
農 学 部	2	3,700	1	200	1	2,420	2	2,840	4	3,590
水 産 学 部	2	2,000	2	2,000	2	2,000	1	1,500	2	4,420
計	14	24,232	20	29,068	26	44,899	42	53,274	57	89,369

公開講座

(公開講座)

(平成13年度)

講座名 (実施部局)	開設期間 時間帯	時間数 (時間)	講習料 (円)	受講対象者	募集人員 (人)	開催場所
今だからこそ古典を学ぶ (法文学部)	6/2～7/21 13:30～16:30	25	8,800	一般市民	60	法文学部
コンピューターと教育 (教育学部)	7/25～7/27 9:00～16:20	18	7,800	教育関係者	35	教育学部
地域づくりと私たちの生涯学習 (教育学部)	未定 19:00～20:30	20	7,800	町民一般	20	与論町中央公民館他
若者の生きがいづくりと地域おこし (教育学部)	未定 10:00～21:00	15	6,800	青年及び成人一般	20	与論町中央公民館他
Active Aging－リハビリテーションからケアまで－(牧園町) (医学部医学科)	8/5 9:00～16:00	5	4,800	医師、看護婦、保健婦、理学・作業療法士、ヘルパー、一般市民	90	霧島リハビリテーションセンター
Active Aging－リハビリテーションからケアまで－(鹿児島市) (医学部医学科)	9/2 9:00～16:00	5	4,800	医師、看護婦、保健婦、理学・作業療法士、ヘルパー、一般市民	120	医学部鶴陵会館
Active Aging－リハビリテーションからケアまで－(宮崎市) (医学部医学科)	10/14 9:00～16:00	5	4,800	医師、看護婦、保健婦、理学・作業療法士、ヘルパー、一般市民	120	宮崎県看護等研修センター
Active Aging－リハビリテーションからケアまで－(那覇市) (医学部医学科)	11/25 9:00～16:00	5	4,800	医師、看護婦、保健婦、理学・作業療法士、ヘルパー、一般市民	120	那覇市自治会館
「口と心身」 (歯学部)	2/3 13:00～18:00	4	4,800	歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士、歯科医療関係者	40	川内市民会館
「健やかな人生のための歯科医療」 (歯学部)	11/25 10:00～18:00	7	5,800	歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士、歯科医療関係者	60	宮崎県歯科医師会館
沿岸域の環境 (工学部)	9/3 10:00～16:00	5	4,800	一般市民	40	工学部
子どもたちに伝える森のしくみ (農学部)	10/27～10/28 9:00～17:00	10	5,800	小学校教諭及び一般市民	20	農学部附属高隈演習林
ウナギ学～土用の丑の日にちなんで～ (水産学部)	7/21 13:00～18:00	5	4,800	一般市民	30	水産学部
高齢者の介護 (医学部保健学科)	8/25 13:00～17:00	4	4,800	医療従事者 福祉関係者	40	医学部保健学科
理学療法士・作業療法士のための統計処理 (医学部保健学科)	6/2、6/16 13:30～16:30	6	5,800	理学療法士 作業療法士	20	医学部保健学科
ストーマ造設者のQOL向上への援助 (医学部保健学科)	8/4 9:30～17:00	6.5	5,800	保健婦(士)、助産婦、看護婦(士)、準看護婦(士)	50	医学部保健学科
家庭で生かす看護方法 (医学部保健学科)	10/13、10/20 10:00～16:00	10	5,800	一般社会人	30	医学部保健学科
生涯スポーツ講座(スコティッシュ・カントリー・ダンス) (医学部保健学科)	10/21、11/11 10:00～16:00	10	5,800	一般市民	35	医学部保健学科 鹿児島市勤労者交流センター
大学博物館への誘い (総合研究博物館)	10/2～10/3 10:00～15:00	10	5,800	市民一般	20	鹿児島大学総合研究博物館
合計(19)講座		175.5			970	

土地・建物・船舶

(平成13年5月1日現在)

区 分			土 地 (㎡)	建 物 (延面積㎡)			備 考 (単位㎡)	
				木 造	非 木 造	計		
土	郡元地区	事 務 局	233,630 (22)	1,475	10,866	12,341		
		保 健 管 理 セ ン タ ー		0	561	561		
		附 属 図 書 館		0	12,697	12,697		
		法 文 学 部		0	6,930	6,930		
		理 学 部		0	12,512	12,512		
		工 学 部		0	36,932	36,932		
		農 学 部		210	33,361	33,571		
		共 通 教 育 (旧教養部)		0	17,616	17,616		
		教 育 学 部	118,010	838	38,424	39,262		
		小 計	351,640 (22)	2,523	169,899	172,422		
地	桜ヶ丘地区	医学部及び同附属病院	218,726 (4)	0	88,664	88,664	看護婦宿舍 (土地 4,431 建物 4,127)	
		歯学部及び同附属病院		0	23,203	23,203		
		亀ヶ原総合グラウンド		0	52	52		
		医療技術短期大学部		0	7,409	7,409		
		桜ヶ丘寄 宿 舎		0	3,122	3,122		
		小 計	218,726 (4)	0	122,450	122,450		
	下 荒 田 地区	水 産 学 部	49,153	93	12,046	12,139	備外人宿舍 (土地438 建物223) 宿舍 (土地 3,455 建物 1,891)	
		国際交流会館 (1号館)		0	1,430	1,430		
		〃 (2号館)		0	1,259	1,259		
		小 計	49,153	93	14,735	14,828		
及	その他	唐 湊 寄 宿 舎	24,696	0	5,694	5,694		
		唐 湊 果 樹 園	72,682	0	1,015	1,015		
		唐 湊 林 園	9,957	19	0	19		
		寺山自然教育研究施設	301,248	0	831	831		
		教育学部附属養護学校	16,776	509	3,058	3,567		
		桜 島 火 山 観 測 点	297	0	31	31		
	び	その他	霧島リハビリテーションセンター	16,336 (826)	6	4,409	4,415	宿 舎 (土地2,714 建物916)
			高 隈 演 習 林	30,620,836	88	1,535	1,623	
			佐 多 演 習 林	2,992,325	0	166	166	宿 舎 (土地220 建物69)
			入 来 牧 場	1,478,451 (25)	0	3,497	3,497	
垂 水 実 験 地			4,622	68	0	68		
桜 島 溶 岩 実 験 場			372,713	0	0	0		
建 物		その他	指 宿 植 物 試 験 場	39,721	313	2,047	2,360	宿 舎 (土地1,780 建物329)
			東町ステーション	16,902	0	1,183	1,183	
			鴨 池 臨 海 地	4,990 (94)	0	1,642	1,642	その他の宿 舎 (土地 16,382 建物 9,034)
			職員会館及び外国人宿泊施設	955	0	717	717	
	磯 艇 庫		407 (202)	0	243	243		
	谷 山 ふ 頭		0 (1,156)	0	0	0		
	平 川 艇 庫		0 (595)	0	208	208		
	甌 島 観 測 点		0 (49)	0	24	24		
	伊 集 院 観 測 点		0 (7)	0	0	0		
	屋 久 島 観 測 点		0 (109)	0	40	40		
	串 間 観 測 点		0 (58)	0	58	58		
	紫 尾 観 測 点		0 (58)	0	58	58		
	黒 島 観 測 点		0 (58)	0	58	58		
	佐 多 観 測 点		0 (58)	0	11	11		
高 岡 観 測 点	0 (105)	0	40	40				
吉 松 観 測 点	0 (47)	0	0	0				
小 計	35,973,914 (3,447)	1,003	26,565	27,568				
合 計			36,593,433 (3,473)	3,619	333,649	337,268	宿 舎 (土地 29,420 建物 16,589)	
船 舶	船 名	トン数(トン)	機 関	馬 力	長 さ (m)	幅 (m)	深 さ (m)	建 造 年 月 日
	かごしま丸	1,297.08	ディーゼル	2,200	62.70	12.60	5.45	昭和56年10月30日
	敬 天 丸	860.25	〃	2,000	57.04	11.00	6.90	昭和49年7月5日
	南 星 丸	82.97	〃	400	22.00	5.70	2.55	昭和51年3月8日

(注) 1. 土地欄 () 内数量は借用地
2. 各地区土地及び建物数量には備考欄宿舍の数量は含まない。

地区別建物等配置図

郡元地区

(事務局・法文学部・教育学部・理学部・工学部・農学部
大学院連合農学研究科・附属図書館・保健管理センター
地域共同研究センター・総合情報処理センター・遺伝子実験施設・多島園研究センター
アイソトープ総合センター・留学生センター・総合研究博物館・機器分析センター)



部分は、自転車・単車用駐輪場

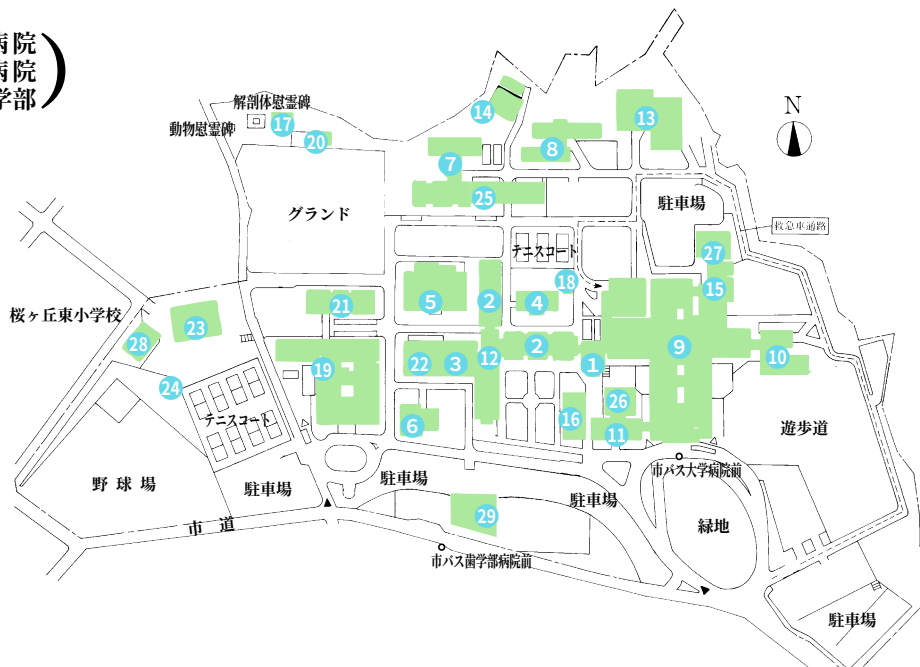
郡元地区

- ① 事務局・総合研究博物館・機器分析センター
- ② 保健管理センター
- ③ 事務局車庫、電話交換室、埋文調査室
- ④ 農学部1号館(管理室・生物生産学科・生物資源化学科・生物環境学科実験研究室)
- ⑤ 農学部2号館(獣医学科実験研究室)
- ⑥ " 附属家畜病院
- ⑦ " 3号館(生物生産化学科・生物環境学科実験研究室)
- ⑧ " 4号館(生物生産学科・生物環境学科実験室・農業経営経済学研究室)
- ⑨ " 5号館(生物生産学科・生物環境学科実験研究室)
- ⑩ " 6号館(生物生産学科実験研究室・農業経営経済学研究室)
- ⑪ " 7号館(獣医学科)
- ⑫ 倉庫
- ⑬ 遺伝子実験施設・アイソトープ総合センター
- ⑭ R I 実験室
- ⑮ 農学部温室
- ⑯ " 植物研究実験施設
- ⑰ " 網室・硝子室
- ⑱ " 附属農場動物飼育棟
- ⑲ " 附属農場研究実験棟
- ⑳ " 低温貯蔵実験室
- ㉑ " 水理実験室
- ㉒ " 昆虫飼育棟
- ㉓ 中央変電所
- ㉔ ボイラー室・廃液処理施設
- ㉕ 中央食堂
- ㉖ 工学部中央実験工場
- ㉗ " 機械工学科第三実験棟

- ㉘ 工学部機械工学科2号棟
- ㉙ " 建築学科棟
- ㉚ " 電気電子工学科棟
- ㉛ " 機械工学科第一実験棟
- ㉜ " 機械工学科1号棟
- ㉝ " 応用化学工学科1号棟
- ㉞ " 機械工学科第二実験棟
- ㉟ " 応用化学工学科2号棟
- ㊱ " 海洋波動実験棟
- ㊲ " 薬品庫
- ㊳ " 海洋土木工学科棟
- ㊴ " 情報工学科棟
- ㊵ " 共通棟
- ㊶ 地域共同研究センター
- ㊷ 工学部管理棟
- ㊸ 稲盛会館
- ㊹ 倉庫
- ㊺ 学生サークル棟
- ㊻ 多島園研究センター
- ㊼ 理学部1号館(管理室・物理科学科・地球環境科学科実験研究室・講義室)
- ㊽ " 2号館(数理情報科学科・生命化学科・地球環境科学科・生命化学科実験研究室・講義室)
- ㊾ " 3号館(生命化学科実験研究室・講義室)
- ㊿ 総合情報処理センター・留学生センター
- ① 大会館(1・2・4号館)
- ② " 大集会室(3号館)
- ③ 共通教育棟1号館(管理室・講義室)
- ④ " 2号館(文科研究室)
- ⑤ " 3号館(理科研究室)
- ⑥ " 4号館(理科研究室)

- ⑦ 中央図書館
- ⑧ 法文学部管理棟・研究棟・講義棟
- ⑨ " 研究棟・講義棟
- ⑩ " 講義棟
- ⑪ 学生サークル棟
- ⑫ 第1体育館
- ⑬ 第2体育館
- ⑭ 教育学部武道場
- ⑮ " 体育科実験研究棟
- ⑯ " 管理棟・理系研究棟
- ⑰ " 講義棟
- ⑱ " 実習棟
- ⑲ " 講義棟
- ⑳ " 文系研究棟
- ㉑ " 音楽美術科棟
- ㉒ 教育実践研究指導センター
- ㉓ 屋内プール50m
- ㉔ 教育学部附属幼稚園
- ㉕ " 附属中学校
- ㉖ " 附属中学校体育館
- ㉗ " 附属小学校
- ㉘ " 附属小学校体育館
- ㉙ " " 昆虫飼育室
- ㉚ 教育学部倉庫
- ㉛ 弓道場
- ㉜ 体育系サークル合宿研修所
- ㉝ 大学院連合農学研究科棟
- ㉞ 馬術部馬房
- ㉟ 郡元南食堂
- ㊱ 総合教育研究棟

桜ヶ丘地区



桜ヶ丘地区

- | | | |
|--------------------------------|----------------------|-----------------------|
| ① 医学部臨床講義棟 | ⑩ 医学部附属病院結核伝染病棟 | ⑳ 弓道場 |
| ② // 臨床研究棟
(腫瘍研・難治性ウイルス疾患研) | ⑪ // 附属病院管理棟 | ㉑ 歯学部基礎研究棟 |
| ③ // 基礎研究棟 | ⑫ // 基礎講義室・共同利用棟 | ㉒ // 解剖実習棟 |
| ④ // R I 実験施設 | ⑬ 中央機械棟 | ㉓ 桜ヶ丘体育館 |
| ⑤ // 動物実験施設 | ⑭ ポンプ室 | ㉔ 運動器具庫 |
| ⑥ // 福利厚生施設 | ⑮ ライナック治療室 | ㉕ 医療技術短期大学部 (医学部保健学科) |
| ⑦ // 学生寄宿舎 | ⑯ 附属図書館桜ヶ丘分館 | ㉖ 医療情報施設 |
| ⑧ // 附属病院看護婦宿舎 | ⑰ 体育器具庫 | ㉗ MR I - C T 装置棟 |
| ⑨ // 附属病院診療棟・病棟 | ⑱ 倉庫 | ㉘ 課外活動施設 |
| | ㉙ 歯学部・附属病院病棟・研究棟・診療棟 | ㉚ 鶴陵会館 |

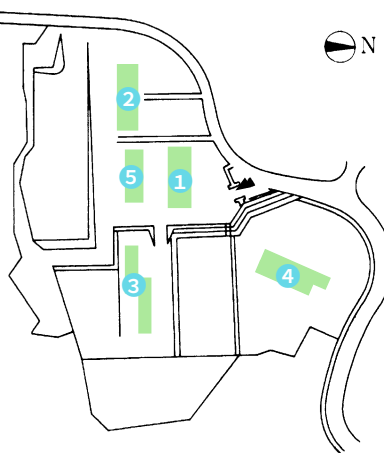
下荒田地区（水産学部）



下荒田地区（水産学部）

- ① 管理・研究棟
- ② 資源利用科学棟
- ③ 管理・研究棟
- ④ 変電室・電話交換室
- ⑤ サークル棟
- ⑥ 資源利用科学実習棟
- ⑦ 福利施設
- ⑧ 国際交流会館（１号館）
- ⑨ 〃 （２号館）
- ⑩ 大型回流水槽実験棟
- ⑪ 職員宿舎
- ⑫ 車庫
- ⑬ ボイラー室
- ⑭ 資源育成科学棟
- ⑮ 附属図書館水産学部分館
- ⑯ 講義棟
- ⑰ 倉庫

学生寮

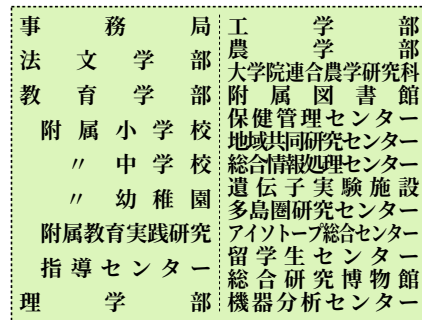


学生寮

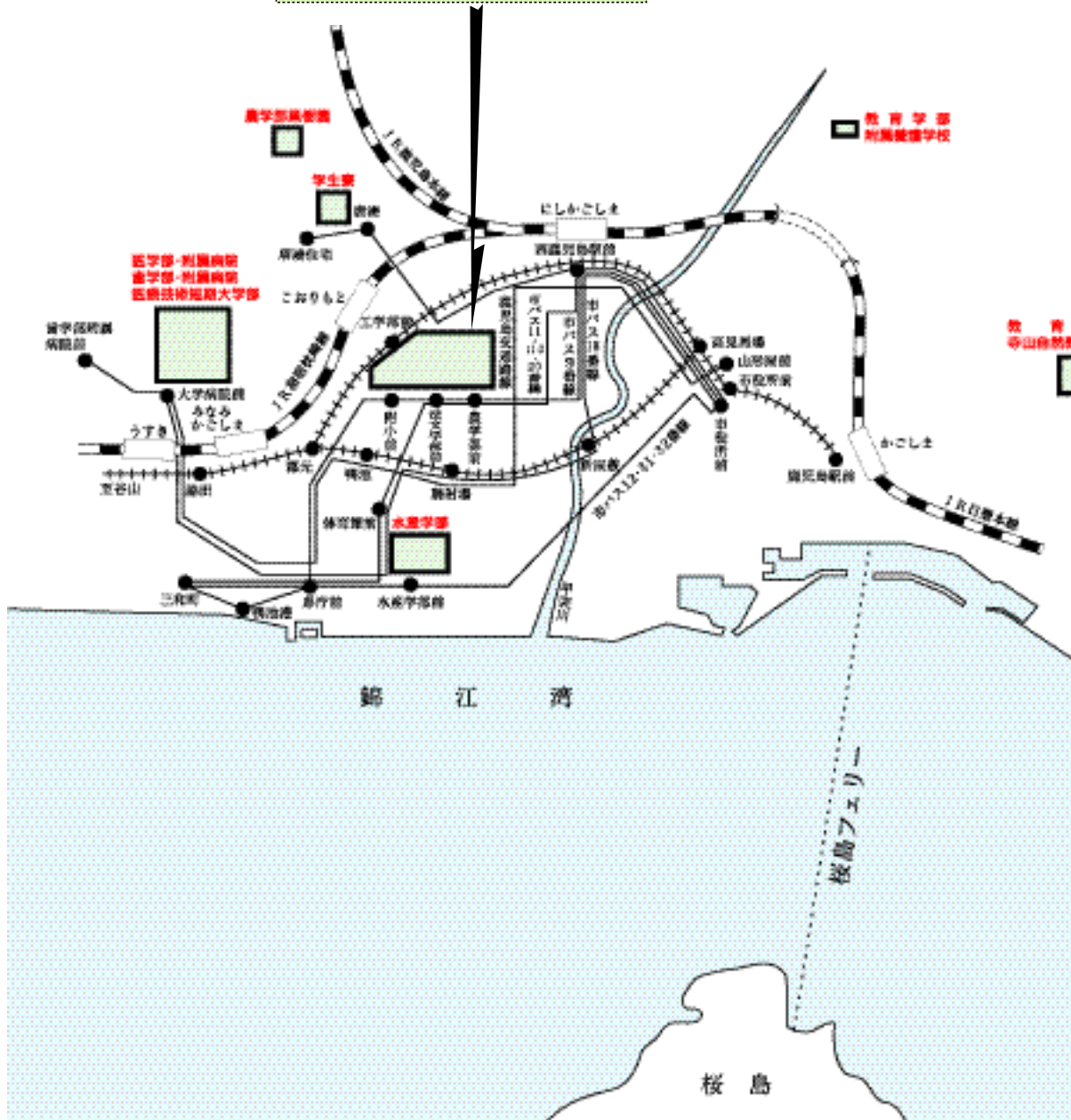
- ① 男子寄宿舍A棟
② // B棟
③ // 5号寮
④ 女子寄宿舍
⑤ 共用棟



交通機関利用略図



学 部 等		交 通 機 関	
事務局・農学部・大学院連合農学研究科・保健管理センター・遺伝子実験施設・アイソトープ総合センター・総合研究博物館・機器分析センター	市	9・11・11-2・20番線(鴨池港行)	農学部前
法文・教育・教育学部附属教育実践研究指導センター・理・工学部・附属図書館・地域共同研究センター・総合情報処理センター・多島園研究センター		9・11・11-2・20番線(鴨池港行)	法文学部前
附属小学校・中学校・幼稚園		9番線(鴨池港行)―附属小学校前	
附属養護学校	営	8番線(交通局北営業所前行)	玉江橋
		11・11-2番線(西高校前行)	
		15番線(交通局北営業所前行)	玉江小前
	バ	24番線(緑ヶ丘団地行)	
		11・11-2番線(鴨池港行)	
水産学部		15番線(紫原行)	体育館前
	ス	17番線(広木農協前行)	
		18番線(大病院線由桜ヶ丘行)	
		12・31・32番線(三和町行)―水産学部前	
医学部・附属病院	ス	18 (大病院線經由 大病院前)	大病院前
歯学部・附属病院		桜ヶ丘行)	歯学部病院前
医療技術短期大学部		私営バス	鹿兒島交通線 大病院前
学生寮	市営バス	25番線(唐湊住宅行)	唐湊

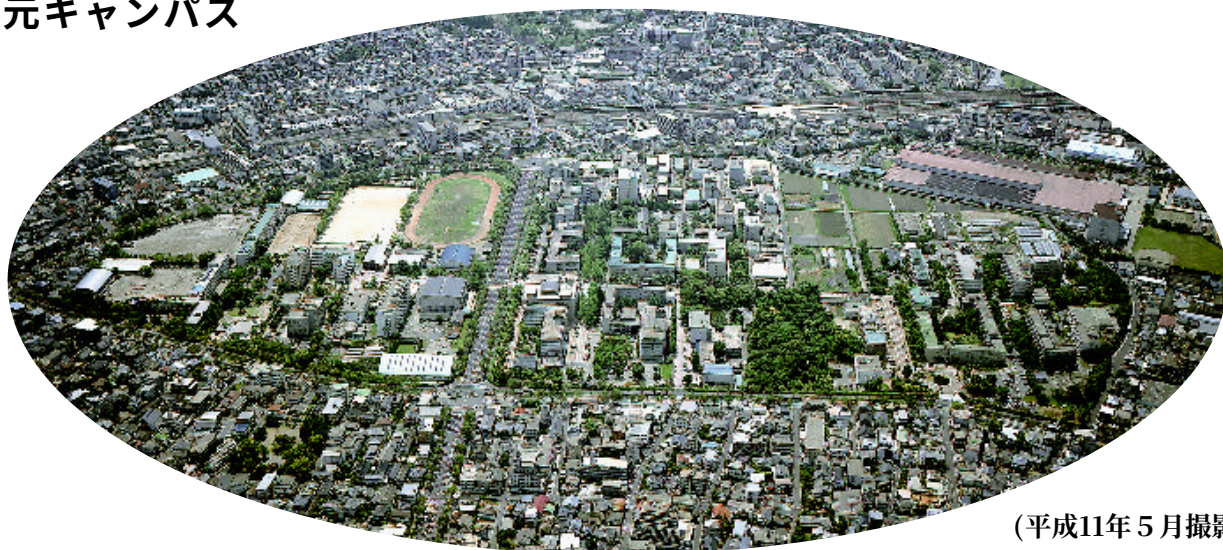


所在地一覧

事務局	〒890-8580	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎(285)7111(大代表) 時間外(285)7188
共通教育棟	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎(285)7111(大代表) 時間外(285)8834
法文学部	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番30号	☎(285)7111(大代表)
教育学部	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番6号	☎(285)7111(大代表) 時間外(285)7729
附属小学校	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番15号	☎(285)7111(大代表)
附属中学校	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番35号	☎(285)7111(大代表)
附属養護学校	〒890-0005	〃 下伊敷一丁目10番1号	☎(224)6257・(224)0206
附属幼稚園	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番15号	☎(285)7111(大代表)
附属教育実践研究指導センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目20番6号	☎(285)7111(大代表)
理学部	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎(285)7111(大代表)
附属南西島弧地震火山観測所	〒892-0871	〃 吉野町10861	☎(244)7411
医学部	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎(275)5111(大代表)
附属腫瘍研究施設	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎(275)5111(大代表)
附属動物実験施設	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎(275)5111(大代表)
附属難治性ウイルス疾患研究センター	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎(275)5111(大代表)
附属病院	〒890-8520	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎(275)5111(大代表)
リハビリテーション科 (霧島リハビリテーションセンター)	〒899-6603	始良郡牧園町高千穂3930-7	☎0995(78)2457・2538(大代表・時間外)
歯学部	〒890-8544	鹿児島市桜ヶ丘八丁目35番1号	☎(275)5111(大代表)
附属病院	〒890-8544	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎(275)5111(大代表)
工学部	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎(285)7111(大代表)
農学部	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎(285)7111(大代表)
附属農場	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎(285)7111(大代表)
唐湊果樹園	〒890-0081	〃 唐湊三丁目32番1号	☎(254)1042
指宿植物試験場	〒891-0402	指宿市十町1291番地	☎0993(22)2848
入来牧場	〒895-1402	薩摩郡入来町浦之名字大谷4018-3	☎0996(44)2204
附属演習林	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎(285)7111(大代表)
高隈演習林	〒891-2101	垂水市海潟3237番地	☎0994(32)6329
佐多演習林	〒893-2604	肝付郡佐多町馬籠349	☎09942(7)3002
附属家畜病院	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎(285)7111(大代表)
水産学部	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎(286)4111(大代表)
附属海洋資源環境教育研究センター	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎(286)4111(大代表)
附属海洋資源環境教育研究センター 東町ステーション	〒899-1403	出水郡東町諸浦字蛤潟1620-3	☎0996(64)5013
大学院連合農学研究科	〒890-0065	鹿児島市郡元一丁目21番24号	☎(285)7111(大代表)
附属図書館	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎(285)7415
桜ヶ丘分館	〒890-0075	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎(275)5201
水産学部分館	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎(286)4051
保健管理センター	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎(285)7111(大代表)
地域共同研究センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎(285)8491
総合情報処理センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番35号	☎(285)7474
遺伝子実験施設	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎(285)7111(大代表)
多島圏研究センター	〒890-8580	〃 郡元一丁目21番24号	☎(285)7394
アイソトープ総合センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎(285)7111(大代表)
留学生センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎(285)7111(大代表)
総合研究博物館	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎(285)7111(大代表)
機器分析センター	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎(285)7111(大代表)
稲盛会館	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番40号	☎(285)7111(大代表)
大学会館	〒890-0065	〃 郡元一丁目21番24号	☎(285)7324
学生寮	〒890-0081	〃 唐湊三丁目3番1号	☎(251)3238・(254)9098
国際交流会館(1号館)	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎(285)7325
〃 (2号館)	〒890-0056	〃 下荒田四丁目50番20号	☎(285)7325
職員会館(天心荘)	〒890-0082	〃 紫原三丁目20番19号	☎(252)0577
外国人研究員宿泊施設	〒890-0082	〃 紫原三丁目20番19号	
医療技術短期大学部	〒890-0075	〃 桜ヶ丘八丁目35番1号	☎(275)5111(大代表)

キャンパスの全景

- 郡元キャンパス



(平成11年 5月撮影)

- 桜ヶ丘キャンパス



(平成11年 5月撮影)

- 下荒田キャンパス



(平成12年 4月撮影)



田中弘允 学長

鹿児島大学は、南九州にあってわが国の大規模な総合大学の一つとして、創立以来50余年にわたりその使命を十分に果たして参りました。本学は、旧制第七高等学校造士館、鹿児島師範学校、鹿児島青年師範学校、鹿児島農林専門学校及び鹿児島水産専門学校を母体として、文理・教育・農・水産の4学部をもって昭和24年に創設されました。その後、医学部と工学部の増設、文理学部改組による法文学部、理学部、教養部の新設、歯学部と医療技術短期大学部の設置が行われています。そして平成9年4月1日より教養部の廃止転換と8学部の改組・充実が行われ4（6）年一貫教育となりました。

現在、法文・教育・理・医・歯・工・農・水産の8学部と大学院の8研究科からなっており、学生数約1万1千人、教官数、職員数それぞれ1千余人を擁しています。また附属図書館、地域共同研究センター、総合情報処理センター、遺伝子実験施設、多島園研究センター、アイソトープ総合センター、留学生センター、総合研究博物館、機器分析センターなどの全学附属施設が設置されています。その他、学部には附属学校・幼稚園、附属病院、農場、演習林、家畜病院などの諸施設や大型練習船などがあり、本学の教育・研究上の特徴をかたちづくっています。

このように、人文科学、社会科学、自然科学、生命科学といった多くの学問分野の教官に恵まれ、また諸施設・設備が整っていますので、教育面では幅広い教養教育と専門教育を実施することができ、また研究面では伝統的学術研究に加えて、最近提起されている食糧、家庭・学校・職場などの人間関係、環境、離島などに関する複雑かつ重要な地球的・社会的・地域的課題を解決することもできます。

これらの課題の解決には、多面的な取り組みが必要ですが、本学では全学の英知を結集して研究に当たるため、すでに全学合同研究プロジェクトが進められ一定の成果をあげつつあります。それらは、「大地、食、人間の健康を保全する環境革命への試行－鹿児島県をケーススタディーとして－」（これは有機農業プロジェクトと呼ばれています。）、「新しい関係性を求めて－コミュニケーションの諸相－」、「開放系／半開放系ゴミ処理と地域資源循環型社会の構築に関する研究」、「地域学の創造－新しい鹿児島学－」、「離島学の構築」の5つの研究プロジェクトです。いずれも社会への政策提言を目標の一つとしていますが、その成果は全世界に発信する価値があるものです。

本学が位置する鹿児島は、南北600Kmにわたって豊かな自然と海、島々、火山、温泉に恵まれており、桜島、錦江湾、世界自然遺産屋久島は鹿児島の象徴ともなっています。鹿児島の人々は明治維新の原動力となった西郷隆盛を敬愛し、鉄砲伝来やザビエル上陸などの歴史的出来事を誇りにしています。

鹿児島市の中心を占めるキャンパスには、南国特有のヤシやソテツ、桜並木、自然林、農園、池などがあり、陸上競技場、プールなどの諸施設も整っています。まさに、学問、スポーツ、市民との交流など様々な活動に適した環境にあることができます。

本学は、伝統的学問領域における学術文化の継承と最先端の知的創造、豊かな人間性と幅広い教養を持った社会人の育成、地域の総合的教育研究と全世界特に中国、東南アジア、韓国などとの学術交流、地域的・地球的課題の解決などを目指して常に進化し、人類の福祉に貢献致します。

鹿児島大学位置図



鹿児島大学学章



（創立50周年を記念して制定）

鹿児島大学のアルファベットの頭文字「K」をデザインしたものである。

今、まさに飛び立とうとしている姿を「鳳」の形にデザインし、歴史と伝統に輝く鹿児島大学のキャンパスを築く卒業生が世界の舞台を翔ようとしている姿をシンボル化したものである。

表紙デザイン：梅田晴郎、中尾零士（教育学部）

鹿児島を象徴する桜島を「KAGOSHIMA」の文字でカラフルに表現し、全体は白をベースに赤のアクセントカラーで明るくさわやかにまとめた。

●鹿児島大学からの距離(km)

1	農学部桜島溶岩実験場	9
2	農学部附属演習林高隈演習林	48
3	農学部附属演習林佐多演習林	110
4	医学部附属病院リハビリテーション科 (霧島リハビリテーションセンター)	65
5	農学部附属農場入来牧場	30
6	農学部附属農場指宿植物試験場	45
7	水産学部附属海洋資源環境教育 研究センター東町ステーション	117

編集・発行 鹿児島大学総務部総務課

〒890-8580 鹿児島市郡元一丁目21番24号

代表電話 099(285)7111

FAX 099(285)7034

発行日 平成13年6月